尼崎市
男女共同参画に関する市民意識調査報告書

令和３年３月

尼崎市

目　次

Ⅰ．調査の概要 1
１．調査目的 1
２．調査方法 1
３．回収状況 1
４．回答者の属性 1
５．調査項目 2
６．報告書を見る際の注意事項 2

Ⅱ．調査結果概要 3
１．性別役割意識について 3
２．ジェンダーに関する意識について 5
３．男女の平等感について 6
４．子育ての考え方について 7
５．性の多様性について 8
６．主な仕事、家事・育児時間について 9
７．女性が働き続けるために必要なこと 11
８．地域活動における男女の役割分担について 12
９．仕事、家庭生活、地域活動、個人の生活の優先度について 14
10．配偶者やパートナー、恋人からの暴力について 15
11．男女共同参画施策の認知度について 17

Ⅲ．調査結果 18
１．回答者の属性 18
２．男女の平等感について 28
３．男女の役割分担について 32
４．女性が働き続けるために必要なこと 43
５．地域活動における男女の役割分担について 48
６．仕事、家庭生活、地域活動、個人の生活の優先度などについて 50
７．子育ての考え方について 55
８．男女共同参画施策等の認知度について 58
９．男女共同参画に関する経験について 60
10．性の多様性について 63
11．配偶者やパートナー、恋人からの暴力について 64

Ⅳ．自由意見 75
１．記入状況 75
２．代表的な意見 77

Ⅴ．スコア分析 82
１．問５　ジェンダーに関する意識についてのスコア分析 82
２．問 14　男女共同参画施策等の認知度に関するスコア分析 87

Ⅵ．資料編（調査票） 91

Ⅰ．調査の概要

１．調査目的

本市における男女共同参画に関する意識の変化等を把握し、「第４次尼崎市男女共同参画計画」及び「第３次尼崎市配偶者等からの暴力（ＤＶ）対策基本計画」の策定及び今後の施策展開の基礎資料とするために本調査を実施しました。

２．調査方法

調査対象	調査期間	調査方法
18 歳以上の市民 3,000 人を 住民基本台帳登録者から 無作為抽出	令和２年 10 月 16 日～ 令和２年 10 月 31 日	郵送配布・郵送回収

３．回収状況

配布数	有効回収数	有効回収率
3,000 件	1,196 件 （前回：1,024 件）	39.9％ （前回：34.1％）

（※令和２年 11 月末時点までの回収票を反映）

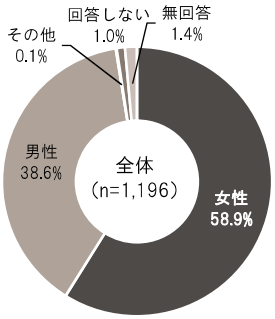
４．回答者の属性

年齢区分	女性		男性		その他		回答しない		無回答		合計	
	数	率	数	率	数	率	数	率	数	率	数	率
10 代	2	0.2%	1	0.1%	－	－	1	0.1%	－	－	4	0.3%
20 代	56	4.7%	28	2.3%	－	－	1	0.1%	－	－	85	7.1%
30 代	105	8.8%	59	4.9%	－	－	1	0.1%	－	－	165	13.8%
40 代	121	10.1%	79	6.6%	1	0.1%	2	0.2%	－	－	203	17.0%
50 代	129	10.8%	93	7.8%	－	－	3	0.3%	－	－	225	18.8%
60 代	137	11.5%	92	7.7%	－	－	1	0.1%	－	－	230	19.2%
70 代	153	12.8%	110	9.2%	－	－	2	0.2%	－	－	265	22.2%
無回答	1	0.1%	－	－	－	－	1	0.1%	17	1.4%	19	1.6%
合計	704	58.9%	462	38.6%	1	0.1%	12	1.0%	17	1.4%	1,196	100%

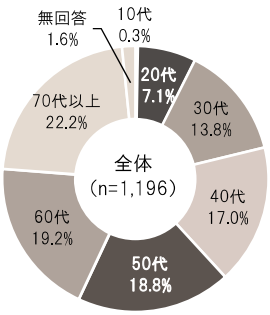
（※率は全体の回答者数 1,196 を基数とした百分率です。）

（※小数点以下第２位を四捨五入しているため、一部合計が合わない箇所があります。）

【性別】



【年代】



5．調査項目

基本目標	方針	質問内容	問番号
①男女の人権の尊重と女性に対する暴力の根絶	女性に対するあらゆる暴力の根絶と自立支援	ＤＶに関する考え、経験、子ども時代の目撃経験	問 18-1
		ＤＶ被害への対応	問 18-2
		ＤＶ被害を相談しなかった理由	問 18-3
		ＤＶに関する相談機関の認知度	問 19
		ＤＶ情報への接触経験	問 20
		性的マイノリティと打ち明けられた際の気持ち	問 17
②社会の制度・慣行等の見直し	社会における男女共同参画の推進	男女の平等感	問 1
		「男は仕事、女は家事・育児」への同意	問 2
		進路・職業選択時における性別の意識	問 3
		ジェンダー意識について	問 5
		子育ての考え方	問 12
		子どもに受けさせたい教育の程度	問 13(1)
		子どもに望む将来の生き方	問 13(2)
		男女共同参画に関する言葉の認知	問 14
		男女共同参画に関する経験について	問 16
③政策・方針の企画・決定における女性の参画拡大	政策形成への女性の参画促進	地域活動における男女の役割分担	問 9
		女性が増えるとよい職業・役職	問 15
④ワーク・ライフ・バランスの確立	家庭と仕事の両立支援	家庭での役割分担	問 4
		就労観について	問 6
		女性が働き続けるために必要なこと	問 7
		職場環境について	問 8
		仕事、家庭生活、地域活動、個人生活の優先度（希望・現状）	問 10
		日常生活における考え・現状	問 11

6．報告書を見る際の注意事項

・回答は各質問の回答者数（n）を基数として百分率（％）で示しています。

・百分率は小数点以下第２位を四捨五入して算出しています。このため、百分率の合計が 100％にならないことがあります。

・１つの質問に２つ以上答えられる複数回答の質問の場合は、回答比率の合計が 100％を超える場合があります。

・グラフ等の記載にあたっては、調査票の選択肢の文言を一部省略している場合があります。

・サンプル数が少ないものについては、コメントを割愛しています。

・表については、報告書内で注目している箇所に　+太字で網かけをしています。

・「前回調査」とは平成 28 年５月に実施した「尼崎市 誰もが生きやすいまちをめざした市民意識調査」のことです。

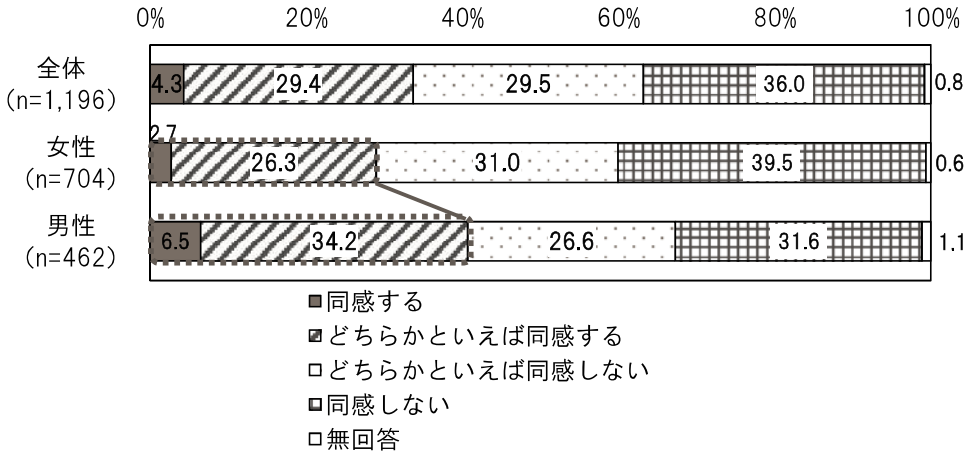
Ⅱ．調査結果概要

1．性別役割意識について（32・33 頁、60～62 頁）※頁数は調査結果本編での該当頁を示しています。

- 前回調査（H28 実施）より、「男は仕事、女は家事・育児」に『不同意』（「どちらかといえば同感しない」＋「同感しない」）の割合が 10 ポイント以上増加している。
- 年代が上がるにつれ、性別役割意識に肯定的になる傾向が見られる。
- 「仕事と生活に理解がある上司がいる」、「性の多様性に関するセミナーを受けたことがある」人で、「男は仕事、女は家事・育児」に『不同意』の割合が高くなっている。

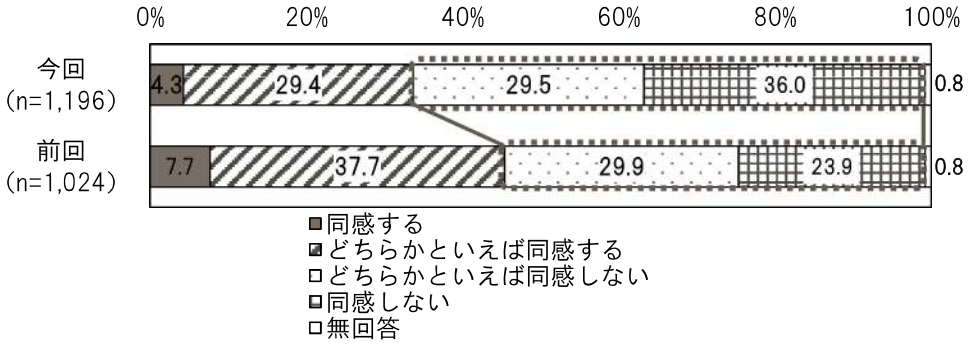
○「男は仕事、女は家事・育児」という考え方については、男性で『同意』（「同感する」＋「どちらかといえば同感する」）の割合が 40.7％と、女性（29.0％）より 11.7 ポイント高くなっています。

【「男は仕事、女は家事・育児」という考え方について】



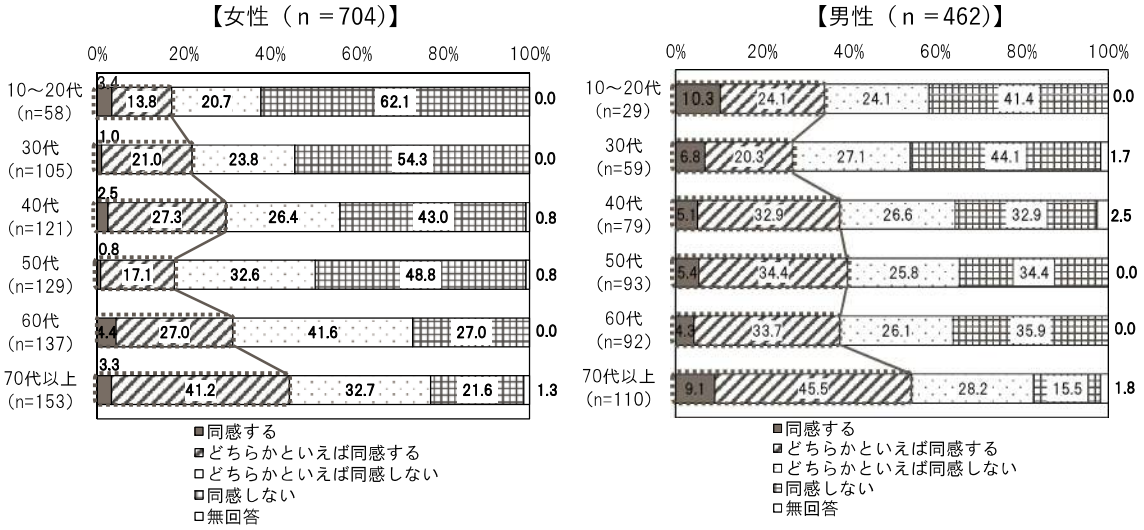
○また、前回調査と比較すると、『不同意』（「どちらかといえば同感しない」＋「同感しない」）の割合が今回調査では 65.5％と、前回調査（53.8％）より 11.7 ポイント増加しています。

【「男は仕事、女は家事・育児」という考え方について　前回調査との比較】



○性年代別にみると、概ね年代が上がるにつれ、『同意』（「同感する」＋「どちらかといえば同感する」）の割合が高くなる傾向がみられ、70 代以上の男性では『同意』の割合が 54.6％と『不同意』の割合（43.7％）を上回っています。

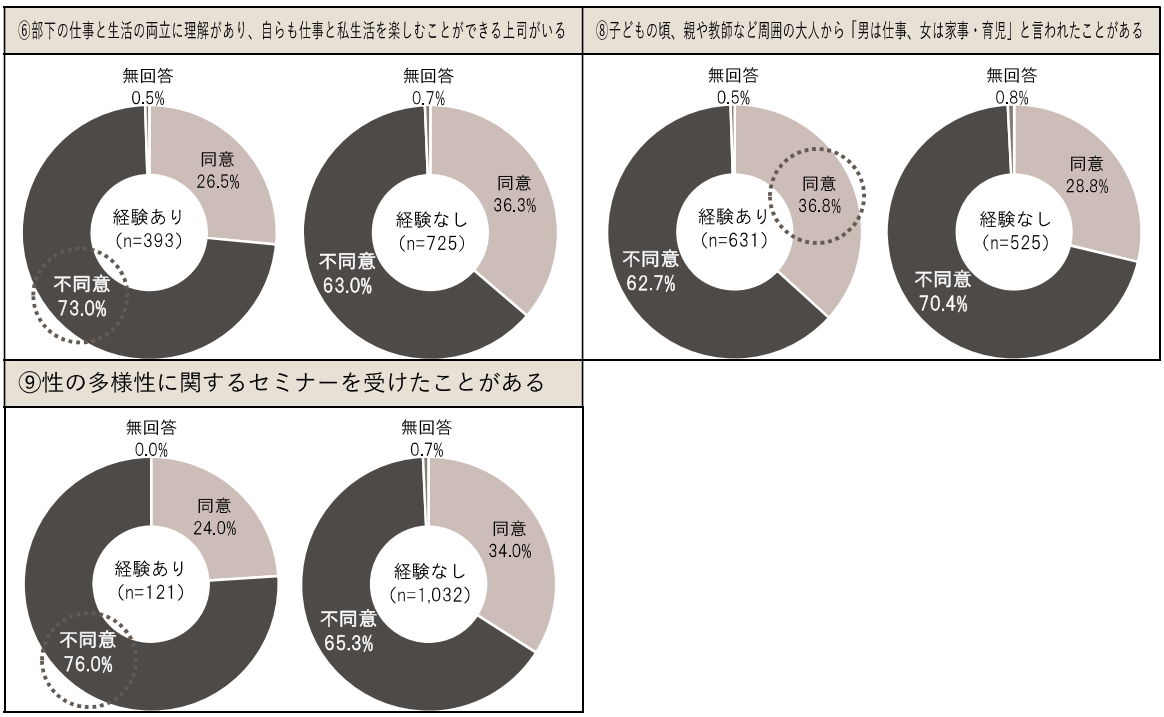
【「男は仕事、女は家事・育児」という考え方について】



○男女共同参画に関する経験と「男は仕事、女は家事・育児」についての考えとのクロス集計をみると、「⑥部下の仕事と生活の両立に理解があり、自らも仕事と私生活を楽しむことができる上司がいる」・「⑨性の多様性に関するセミナーを受けたことがある」で経験がある人は、経験がない人より『不同意』の割合が 10 ポイント以上高くなっています。

○また、「⑧子どもの頃、親や教師などの周囲の大人から「男は仕事、女は家事・育児」と言われたことがある」で経験がある人は、『同意』の割合が 36.8％と、経験のない人（28.8％）より 8 ポイント高くなっています。

※『同意』:「同感する」＋「どちらかといえば同感する」、『不同意』:「どちらかといえば同感しない」＋「同感しない」



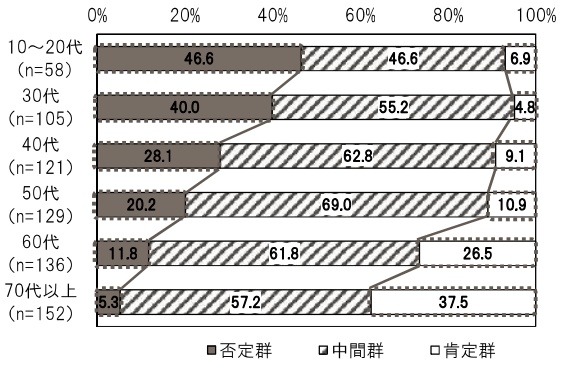
2．ジェンダーに関する意識について（82～86 頁）

> ➢ ジェンダーに関する意識（「女性はこうあるべき」、「男性はこうあるべき」というような性別・性差に対する意識）については、男女ともに 10～20 代で否定的な考えを持つ割合が高くなっている一方で、年代が上がるにつれ、概ね肯定的な考えを持つ傾向がみられる。

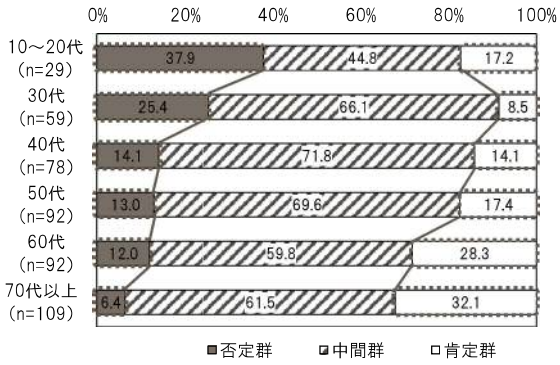
○問 5 の各項目への回答を点数化し算出したジェンダーに関する意識のスコア分析について、性年代別にみると、男女ともに 10～20 代でジェンダーに関する意識「否定群」が高くなっており、年代が上がるにつれ、概ね「肯定群」の割合が高くなる傾向がみられます。

【ジェンダーに関する意識についてのスコア分析（性年代別）】

【女性（n＝701）】



【男性（n＝459）】



【スコアの算出方法について】

下記の 13 項目について、「そう思う」に 4 点、「ややそう思う」に 3 点、「あまりそう思わない」に 2 点、「そう思わない」に 1 点と、ジェンダーに関する意識に肯定的であるほど高い点数を与え、回答者一人ひとりについて合計点を算出し、26 点以下を「否定群」、27 点以上 39 点以下を「中間群」、40 点以上を「肯定群」の 3 つのグループに分け集計を行いました。

＜問 5 の設問内容＞

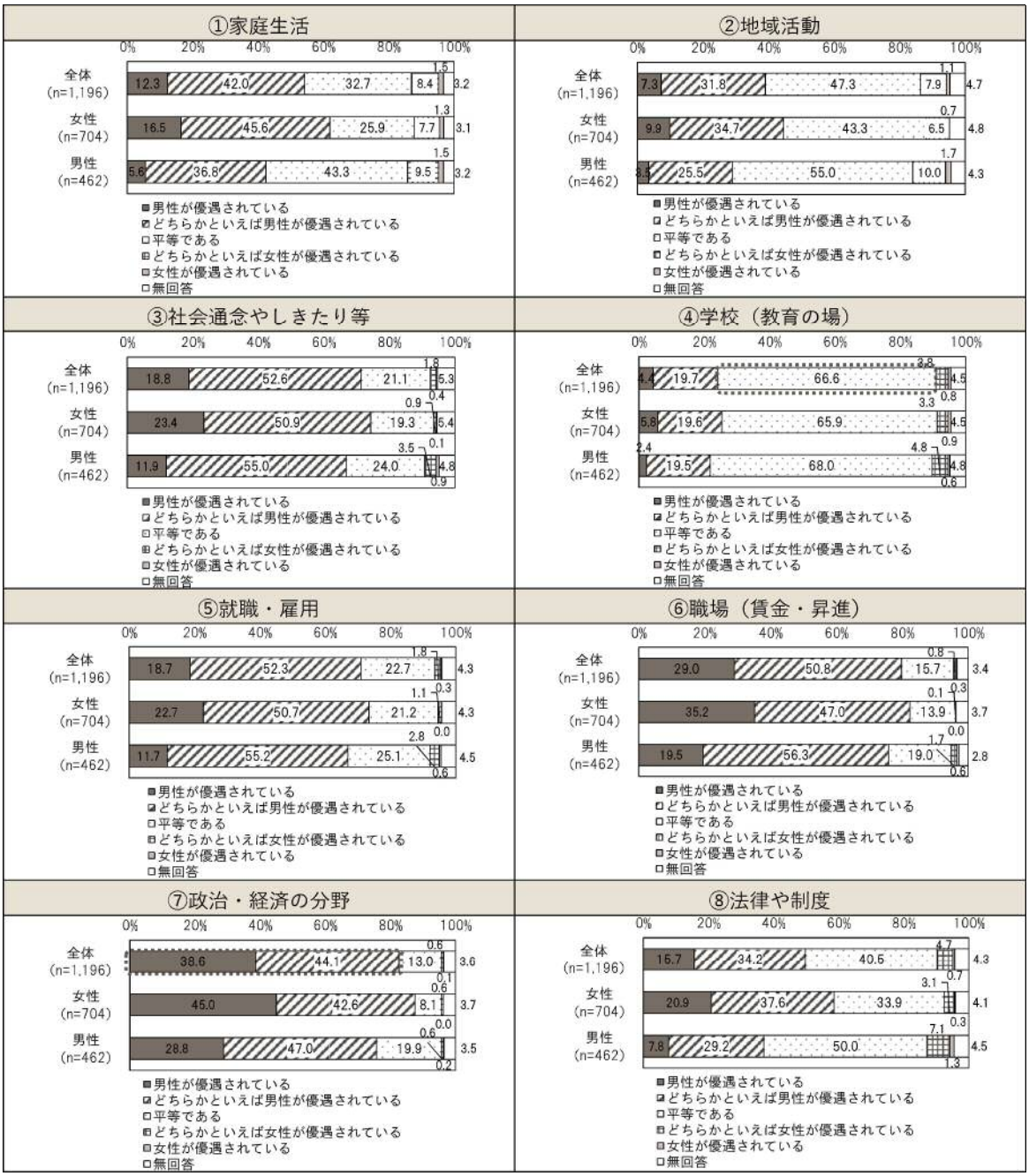
①	人から危害を加えられそうになったとき、身を守るには、やはり男性でないとだめだと思う
②	親が病気や介護を必要とするとき、やはり女性が面倒をみるべきだと思う
③	大地震や火事など緊急事態のとき、その場を取り仕切るのは、やはり男性でないとだめだと思う
④	健康や生活に関わることがらに敏感なのは、女性だと思う
⑤	重いものを運んでもらうとき、やはり男性でないとだめだと思う
⑥	子どもが小さいうちは、母親は仕事を持たず育児に専念すべきだと思う
⑦	夫は家族のために収入を得る責任を持つべきだと思う
⑧	子どもが病気などで苦しんでいるとき、それを我が事として感じとれるのは、やはり母親だと思う
⑨	男性はむやみに弱音を吐くものではないと思う
⑩	生活者優先の政治を本当に推し進められるのは、やはり女性議員だと思う
⑪	最終的に頼りになるのは、やはり男性であると思う
⑫	妻は家族のために家事や育児をする責任を持つべきだと思う
⑬	妻は夫側の墓に入るべきだと思う

3．男女の平等感について（28~31 頁）

- ➢ いずれの分野においても、女性で『男性優遇』と感じる割合が男性より高くなっている。
- ➢ 特に「政治・経済の分野」において、『男性優遇』と感じる割合が最も高くなっている。
- ➢ 「学校（教育の場)」において、「平等である」と感じる割合が最も高くなっている。

○「③社会通念やしきたり等」・「⑤就職・雇用」・「⑥職場（賃金・昇進)」・「⑦政治・経済の分野」において、『男性優遇』(「男性が優遇されている」＋「どちらかといえば男性が優遇されている」)と感じる割合が全体で７割以上を占めており、「⑦政治・経済の分野」で最も高くなっています。

○「④学校（教育の場)」においては、「平等である」が全体で 66.6％と６割以上を占めています。

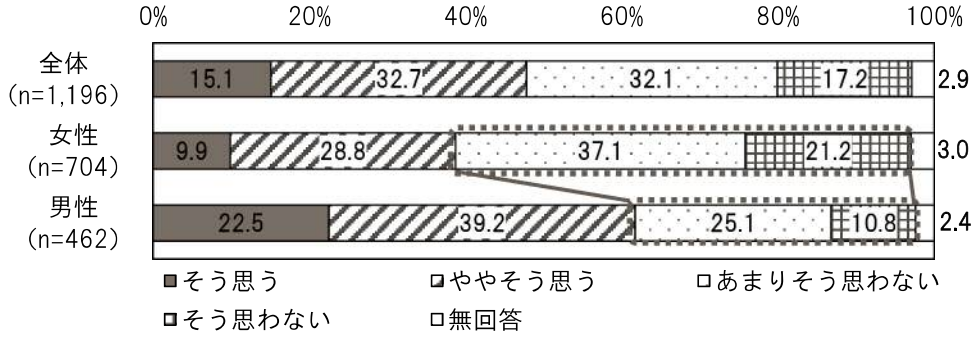


4．子育ての考え方について（55 頁）

> ➢ 「男の子は男らしく、女の子は女らしく育てるのがよい」という考え方について、女性では『そう思わない』（「あまりそう思わない」＋「そう思わない」）の割合が高い一方で、男性では『そう思う』（「そう思う」＋「ややそう思う」）割合が高くなっている。

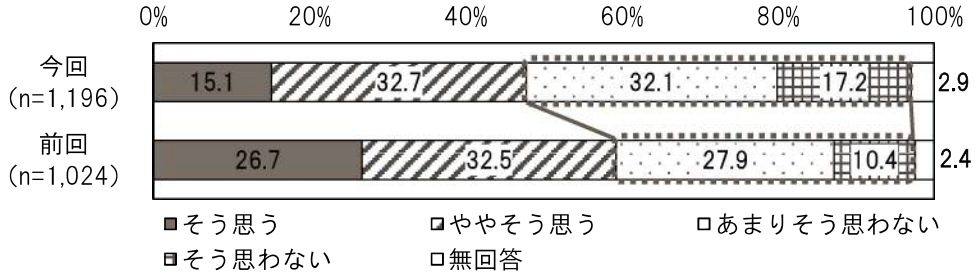
○「男の子は男らしく、女の子は女らしく育てるのがよい」という考え方については、女性で『そう思わない』(「あまりそう思わない」＋「そう思わない」) が 58.3％と、男性（35.9％）より 22.4 ポイント高くなっています。一方で、男性では『そう思う』(「そう思う」＋「ややそう思う」) が 61.7％と 6 割以上となっています。

【「男の子は男らしく、女の子は女らしく育てるのがよい」という考え方について】



○前回調査と比較すると、『そう思わない』と感じる割合が全体で 49.3％と、前回調査（38.3％）より 11.0 ポイント増加しています。

【「男の子は男らしく、女の子は女らしく育てるのがよい」という考え方について　前回調査との比較】

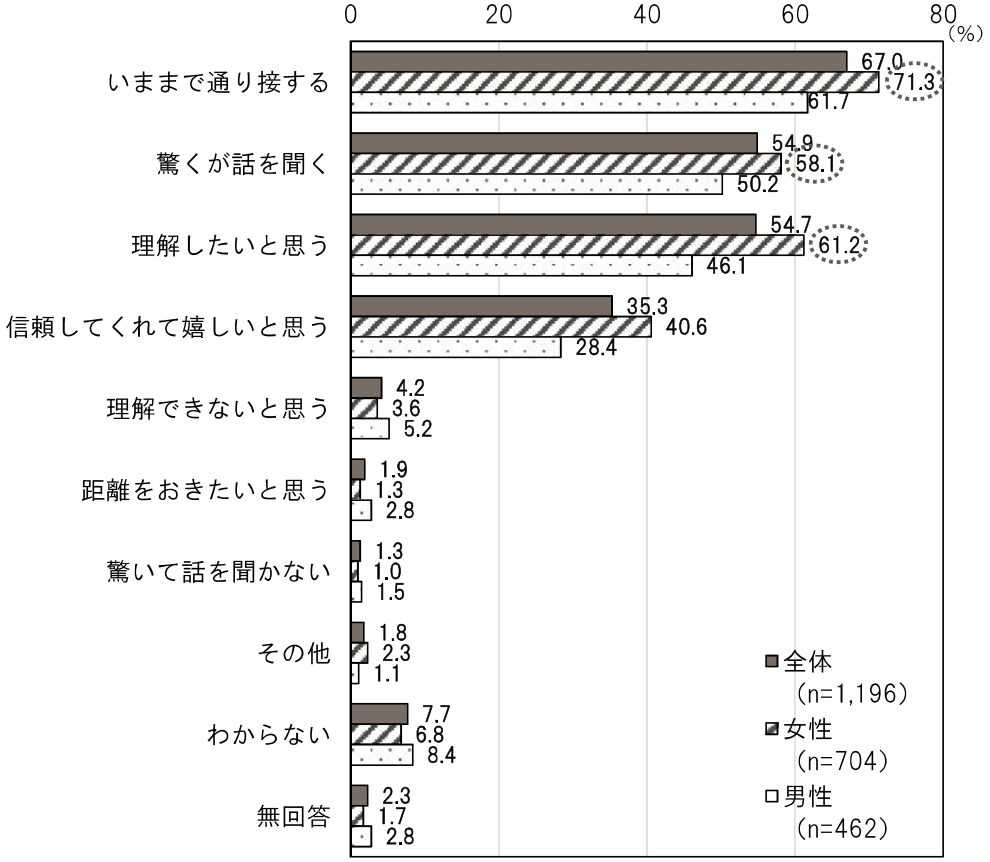


5．性の多様性について（63・79 頁）

> ➢ 身近な人から性的マイノリティであると打ち明けられた場合の気持ちについては、「いままで通り接する」、「驚くが話を聞く」、「理解したいと思う」といった肯定的な回答において、女性が男性より高くなっている。

〇身近な人から、性的マイノリティであると打ち明けられた場合の気持ちに最も近いものについては、「いままで通り接する」が最も高く、次いで「驚くが話を聞く」、「理解したいと思う」の順となっており、性別にみると、これらの肯定的な回答について、女性での回答割合が男性よりやや高くなっています。

【身近な人から性的マイノリティであると打ち明けられた場合の気持ちについて】



【参考】自由意見より抜粋

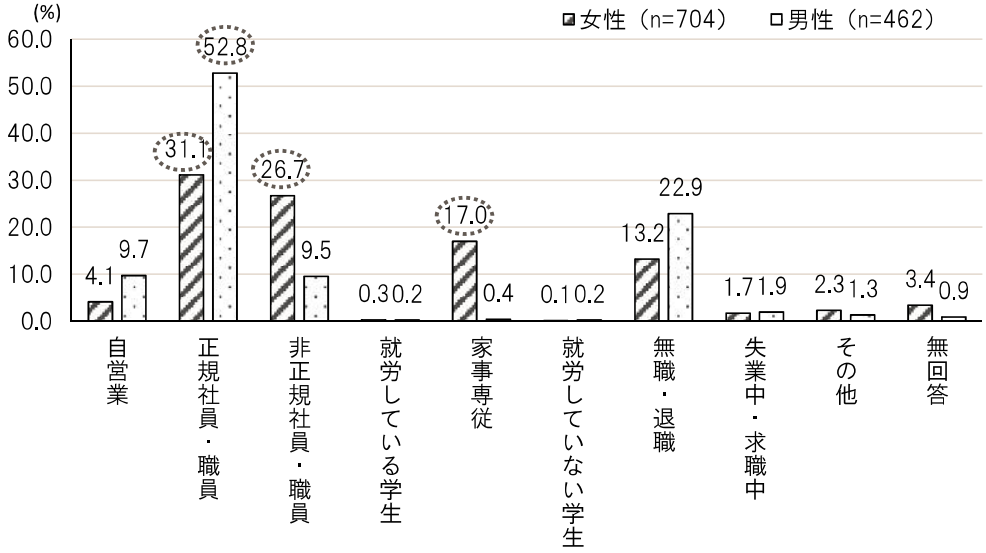
40 代男性	ＬＧＢＴ自らもＧです。一般男女生活の中で隠し生活している事に違和感をずっと心に持ちこれからも世間が変わる事なく進んで行くのかと思うと人間の普通（男女関係）とは別の所に居る自分はこの先不安です。両親、親戚、兄弟、等にどう受け入れてもらえるのか、カミングアウトすれば良いのでしょうが、日本では？まだまだ世間が許してくれない事、理解してくれないのが苦しいです。
40 代女性	私自身がアセクシャルの為、参考にならない回答かと思います。マイノリティはまだ大きくしか認識されてないかと思います。アセクシャルだとパートナーや男女の役割については非常に回答しづらかったです。理解は求めませんがマイノリティは細分化されていると認識頂けると過ごしやすくなる方が多くなるのではないかと思います。

6．主な仕事、家事・育児時間について（19～23 頁）

- **「就学前」の子どもを持つ女性の 6 割以上が働いている。**
- **主な仕事が「正規社員・職員」の男女でも、女性の方が家事時間が長くなっている。**
- 「就学前」の子どもを持つ男女が育児に費やす時間では、女性が男性より長くなっている。
- 「就学前」の子どもを持つ男性が育児に費やす時間では、4 割以上が 5 時間未満となっている一方で、3 割以上が 10 時間以上となっており、二極化している状況がうかがえる。

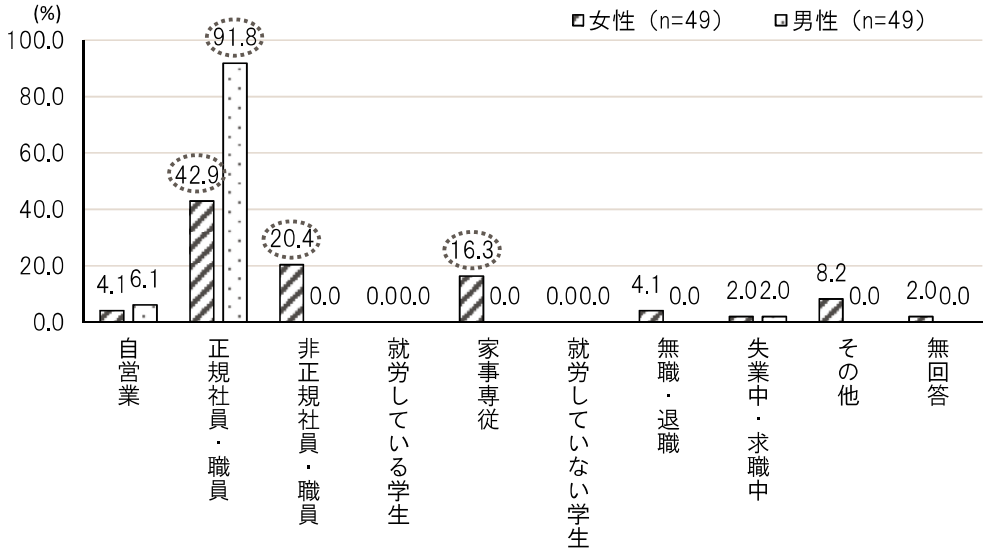
○現在の主な仕事について、性別にみると、男女ともに「正規社員・職員」が最も高くなっているものの、男性が 52.8％と、女性（31.1％）より 21.7 ポイント高くなっています。また、女性では「非正規社員・職員」が 26.7％、「家事専従」が 17.0％と、ともに男性より 15 ポイント以上高くなっています。

【性別での就労状況】



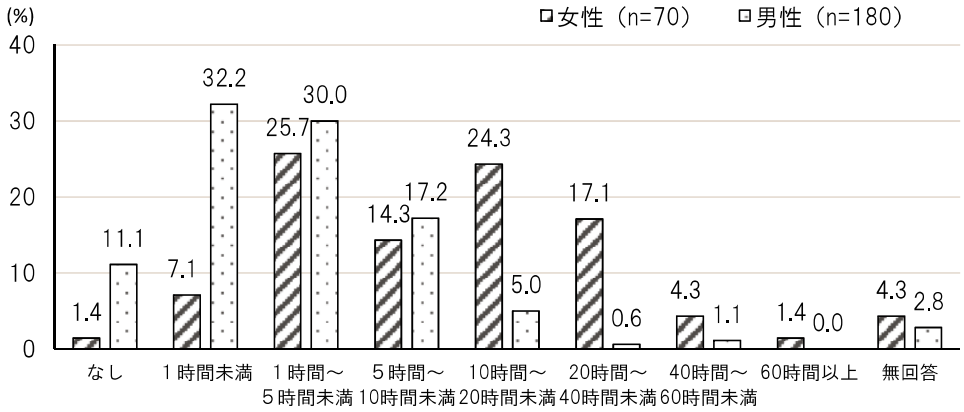
○「就学前」の子どもを持つ人において、就労状況を性別にみると、男女ともに「正規社員・職員」が最も高くなっているものの、男性が 91.8％と、女性（42.9％）より 48.9 ポイント高くなっています。また、女性では「自営業」・「正規社員・職員」・「非正規社員・職員」を合わせた『有職者』の割合が 67.4％と 6 割以上となっています。

【「就学前」の子どもを持つ人における性別での就労状況】



○現在の主な仕事が「正規社員・職員」の人において、１週間あたりの家事時間を性別にみると、「なし」から「５時間～10 時間未満」では男性の方が高い一方で、「10 時間～20 時間未満」から「60 時間以上」では女性の方が高くなっています。

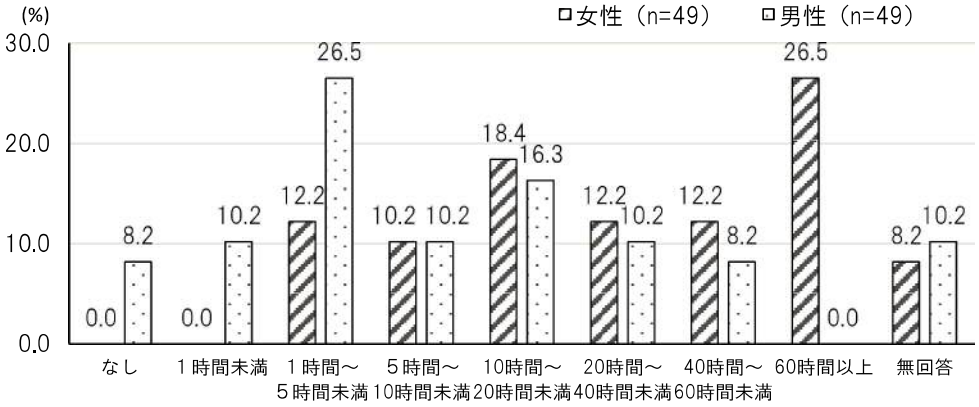
【現在の主な仕事が「正規社員・職員」の人における性別での家事時間】



○「就学前」の子どもを持つ人において、１週間あたりの育児時間を性別にみると、「なし」から「１時間～５時間未満」では男性の方が高い一方で、「10 時間～20 時間未満」から「60 時間以上」では女性の方が高くなっています。

○男性において、「５時間未満」の割合の合計が 44.9％と４割以上を占めている一方で、「10 時間以上」の割合の合計は 34.7％となっており、育児時間について概ね二極化する特徴がみられます。

【「就学前」の子どもを持つ人における性別での育児時間】



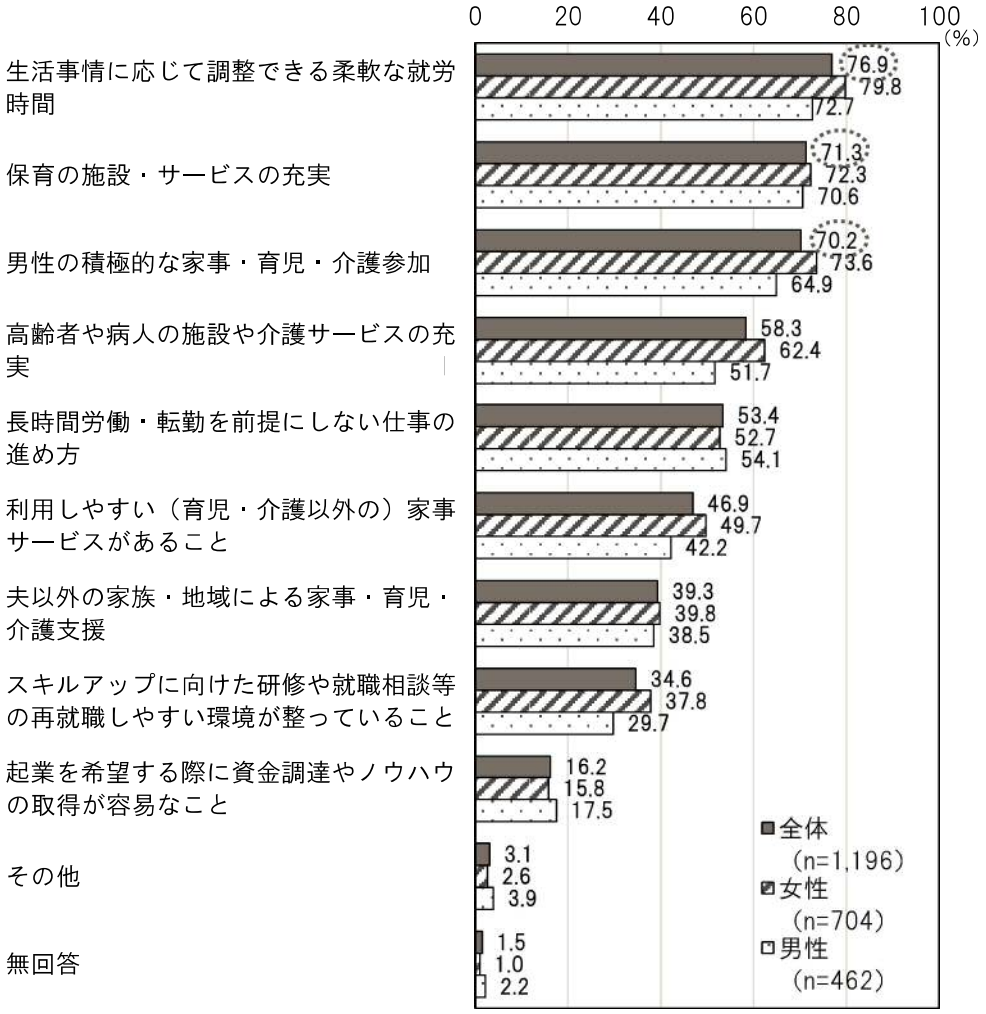
7．女性が働き続けるために必要なこと（45・46 頁）

> ➢ 女性が働き続けるために必要な就労環境として、「生活事情に応じて調整できる柔軟な就労時間」が最も高くなっている。

○就労を希望する女性が働き続けられるようにするために必要な就労環境については、「生活事情に応じて調整できる柔軟な就労時間」が最も高く、次いで「保育の施設・サービスの充実」、「男性の積極的な家事・育児・介護参加」の順となっています。

○前回調査と比較すると、「利用しやすい（育児・介護以外の）家事サービスがあること」が全体で46.9％と、前回調査（39.4％）より 7.5 ポイント増加しています。

【就労を希望する女性が働き続けられるようにするために必要な就労環境について】

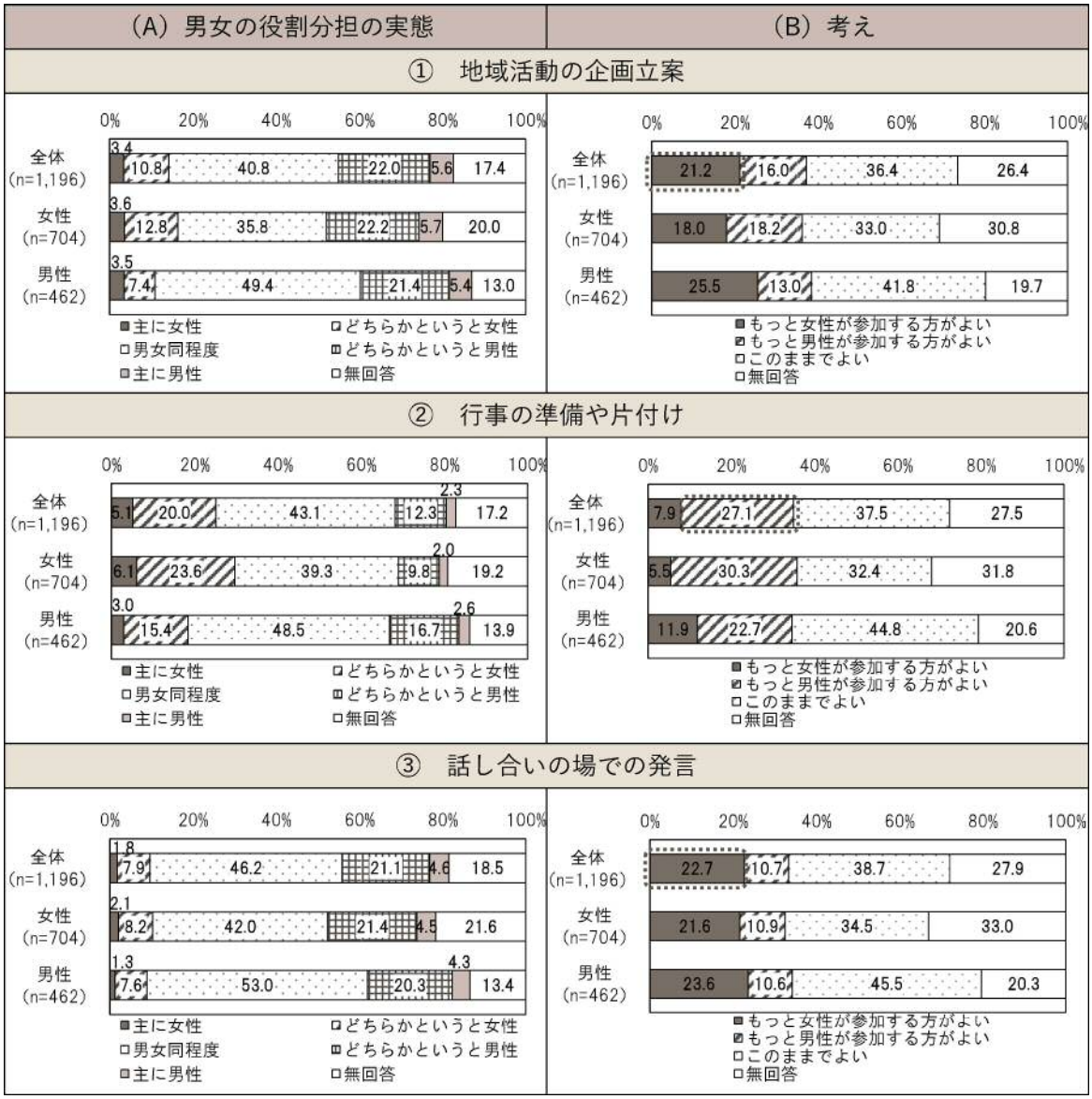


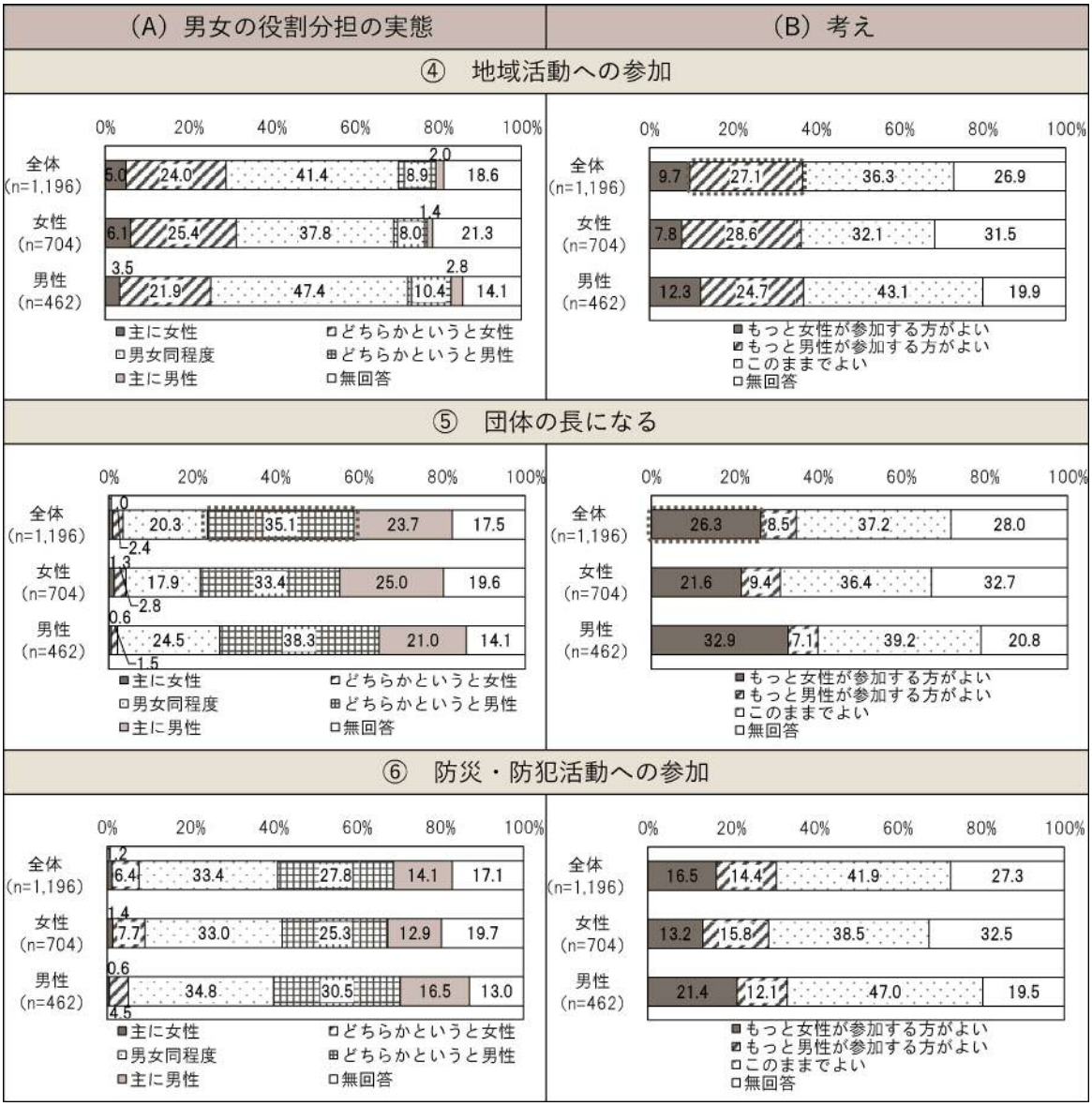
8．地域活動における男女の役割分担について（48・49 頁）

> ➢ 地域活動の役割分担の実態については、「行事の準備や片付け」「地域活動への参加」において女性が担うことが多い一方で、特に「団体の長になる」において、男性が担うことが多くなっている。

○地域活動の男女の役割分担の実態については、「⑤団体の長になる」において、「どちらかというと男性」が最も高く、その他では「男女同程度」が最も高くなっています。

○地域活動の男女の役割分担への考えについては、「①地域活動の企画立案」・「③話し合いでの場での発言」・「⑤団体の長になる」において、「もっと女性が参加する方がよい」が２割以上を占めています。また、「②行事の準備や片付け」・「④地域活動への参加」において、「もっと男性が参加する方がよい」が２割以上を占めています。



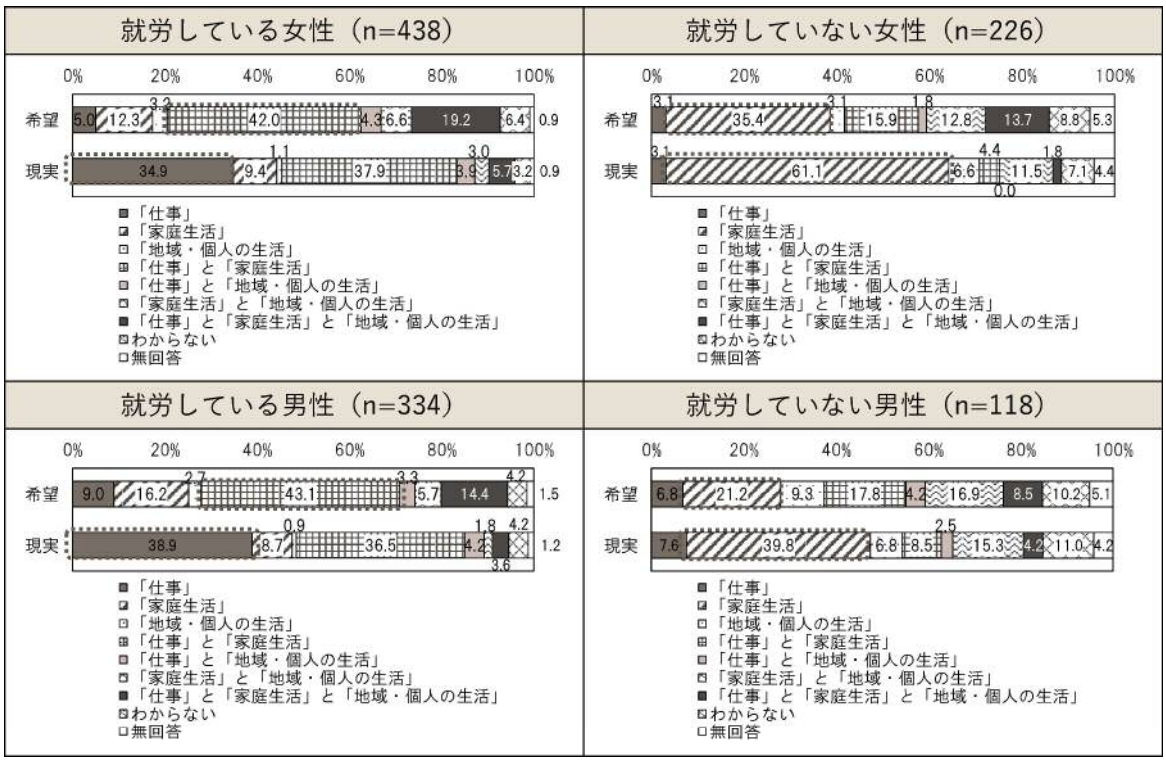

（A）男女の役割分担の実態
（B）考え
④　地域活動への参加
全体 (n=1,196)
女性 (n=704)
男性 (n=462)
0% 20% 40% 60% 80% 100%
5.0 24.0 41.4 8.9 2.0 18.6
6.1 25.4 37.8 8.0 1.4 21.3
3.5 21.9 47.4 10.4 2.8 14.1
主に女性
どちらかというと女性
男女同程度
どちらかというと男性
主に男性
無回答
9.7 27.1 36.3 26.9
7.8 28.6 32.1 31.5
12.3 24.7 43.1 19.9
もっと女性が参加する方がよい
もっと男性が参加する方がよい
このままでよい
無回答
⑤　団体の長になる
1.0 20.3 35.1 23.7 17.5 2.4
1.3 17.9 33.4 25.0 19.6 2.8
0.6 24.5 38.3 21.0 14.1 1.5
26.3 8.5 37.2 28.0
21.6 9.4 36.4 32.7
32.9 7.1 39.2 20.8
⑥　防災・防犯活動への参加
1.2 6.4 33.4 27.8 14.1 17.1
1.4 7.7 33.0 25.3 12.9 19.7
0.6 34.8 30.5 16.5 13.0 4.5
16.5 14.4 41.9 27.3
13.2 15.8 38.5 32.5
21.4 12.1 47.0 19.5

9．仕事、家庭生活、地域活動、個人の生活の優先度について（50~53 頁）

> ➢ 就労している男女ともに、「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい希望はある一方で、現実では「仕事」が優先されている結果となっている。

〇仕事、家庭生活、地域活動、個人の生活の優先度について、性別・就労状況別にみると、男女ともに就労している場合は「仕事」と「家庭生活」を優先したい希望が高い一方、現実では「仕事」を優先している割合が 3 割以上を占めており、特に男性では 38.9％と最も高くなっています。

〇就労していない場合は、男女ともに「家庭生活」を優先したい希望が最も高くなっており、現実でも「家庭生活」を優先している割合が最も高くなっています。また、女性において「家庭生活」を優先している割合が 6 割以上となっています。



10. 配偶者やパートナー、恋人からの暴力について（64~70 頁）

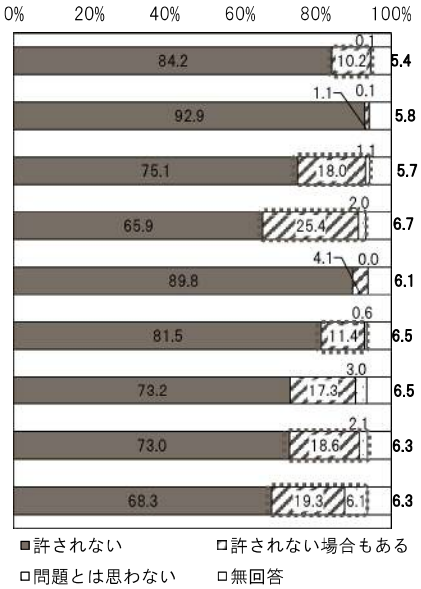
- 身体的・性的暴力などに比べ、精神的・経済的・社会的暴力での問題意識が薄い傾向がみられる。
- 暴力の被害経験のある割合は、ほとんどの項目で女性が男性より高い結果となっている。
- 子ども時代に暴力を目撃した人では、暴力の加害・被害経験のある割合が高い結果となっている。

【暴力の考えについて】

○暴力の考えについては、男女ともに「④何を言っても無視をし続ける」・「⑦仕事に就くことを禁じる」・「⑧携帯電話を勝手に見るなど、交友関係を細かく監視する」・「⑨メール等の返事が少しでも遅いと常に一方的に怒る」で、「許されない場合もある」と「問題とは思わない」の合計が 2 割以上となっています。

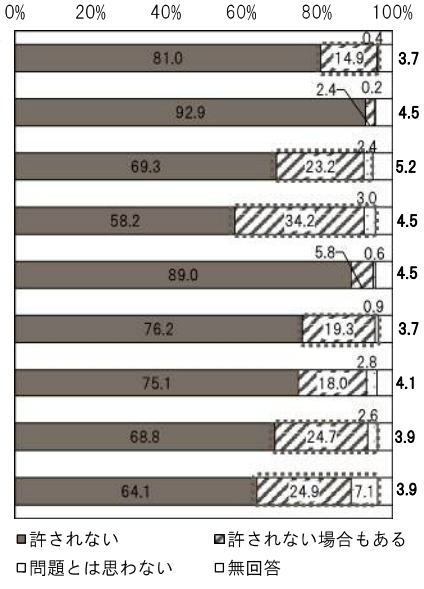
○性別にみると、男性で「①なぐったり、蹴ったり、物をなげつけたり、突き飛ばしたりする」・「③「女（男）のくせに」とばかにしたり、見下したりする」・「④何を言っても無視をし続ける」・「⑥生活費や自由に使えるお金を渡さない」・「⑧携帯電話を勝手に見るなど、交友関係を細かく監視する」・「⑨メール等の返事が少しでも遅いと常に一方的に怒る」で「許されない場合もある」と「問題とは思わない」の合計が女性よりやや高くなっています。

【女性（n=704）】



①なぐったり、蹴ったり、物をなげつけたり、突き飛ばしたりする
②相手や相手の家族に危害を加えると脅す
③「女（男）のくせに」とばかにしたり、見下したりする
④何を言っても無視をし続ける
⑤いやがっているのに性的な行為を強要する
⑥生活費や自由に使えるお金を渡さない
⑦仕事に就くことを禁じる
⑧携帯電話を勝手に見るなど、交友関係を細かく監視する
⑨メール等の返事が少しでも遅いと常に一方的に怒る

【男性（n=462）】

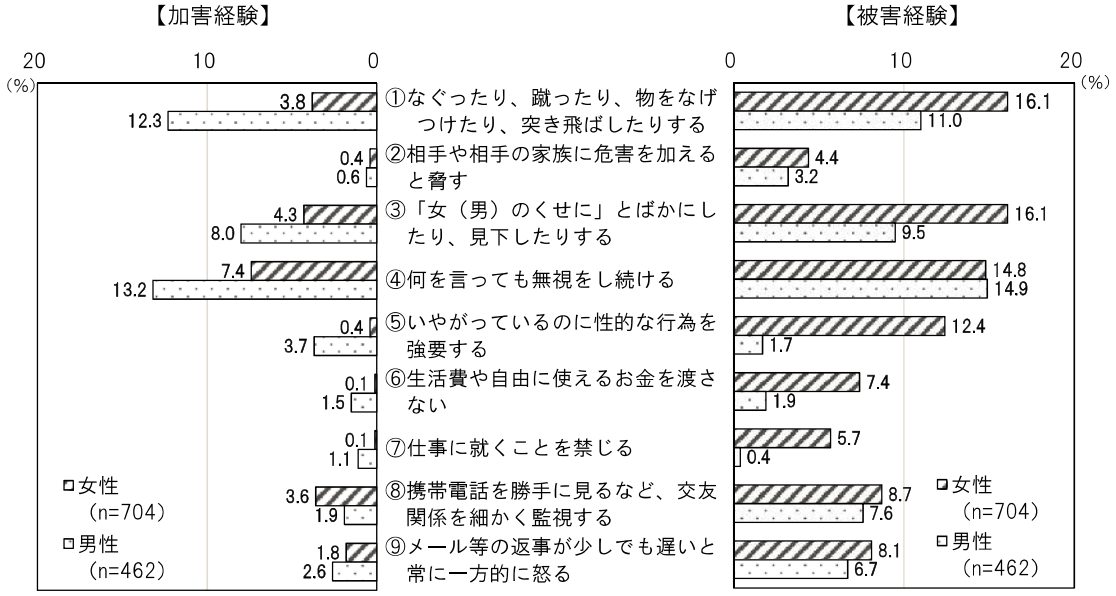


暴力の分類	内容	対応する調査項目
身体的暴力	殴る、蹴る、物を投げつけるなど、直接相手の身体を傷つける暴力	①
性的暴力	性行為を強要する、避妊に協力しないなど、同意のない性行為を相手に強要する暴力	⑤
精神的暴力	大声でどなる、ばかにするなど、心無い言動で相手の心を傷つける暴力	②・③・④・⑨
経済的暴力	生活費を渡さない、仕事を制限するなど相手を経済的に苦しめる暴力	⑥・⑦
社会的暴力	携帯をチェックする、交友関係を監視するなど、相手を社会的に孤立させる暴力	⑧

【暴力の経験について】

○暴力の経験については、加害経験において、男性で「①なぐったり、蹴ったり、物をなげつけたり、突き飛ばしたりする」・「④何を言っても無視をし続ける」が１割以上を占め、女性より５ポイント以上高くなっています。

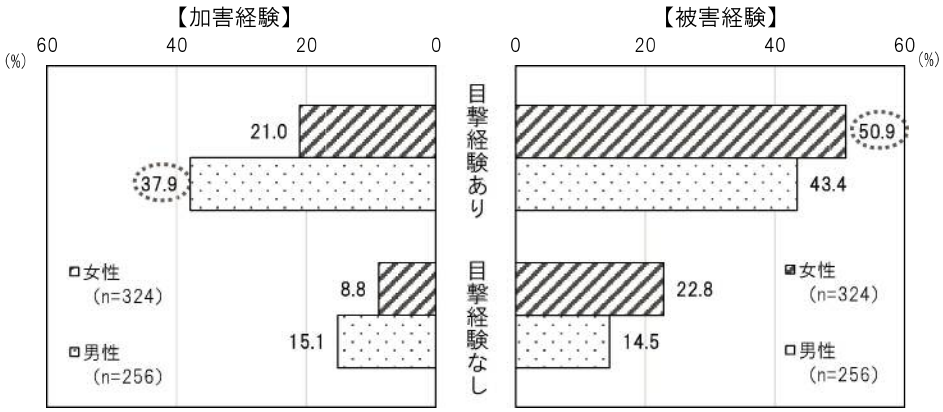
○被害経験では、女性で「①なぐったり、蹴ったり、物をなげつけたり、突き飛ばしたりする」・「③「女（男）のくせに」とばかにしたり、見下したりする」・「⑤いやがっているのに性的な行為を強要する」・「⑥生活費や自由に使えるお金を渡さない」・「⑦仕事に就くことを禁じる」が、男性より５ポイント以上高くなっています。



【子ども時代の目撃経験と加害・被害経験について】

○子ども時代に暴力の目撃経験がある人では、暴力の加害経験、被害経験のある割合が、目撃経験のない人よりも高くなっています。

○性別にみると、加害経験については、目撃経験のある男性で 37.9％と、目撃経験のある女性（21.0％）より 16.9 ポイント高くなっている一方で、被害経験については、目撃経験のある女性で 50.9％と、目撃経験のある男性（43.4％）より 7.5 ポイント高くなっています。

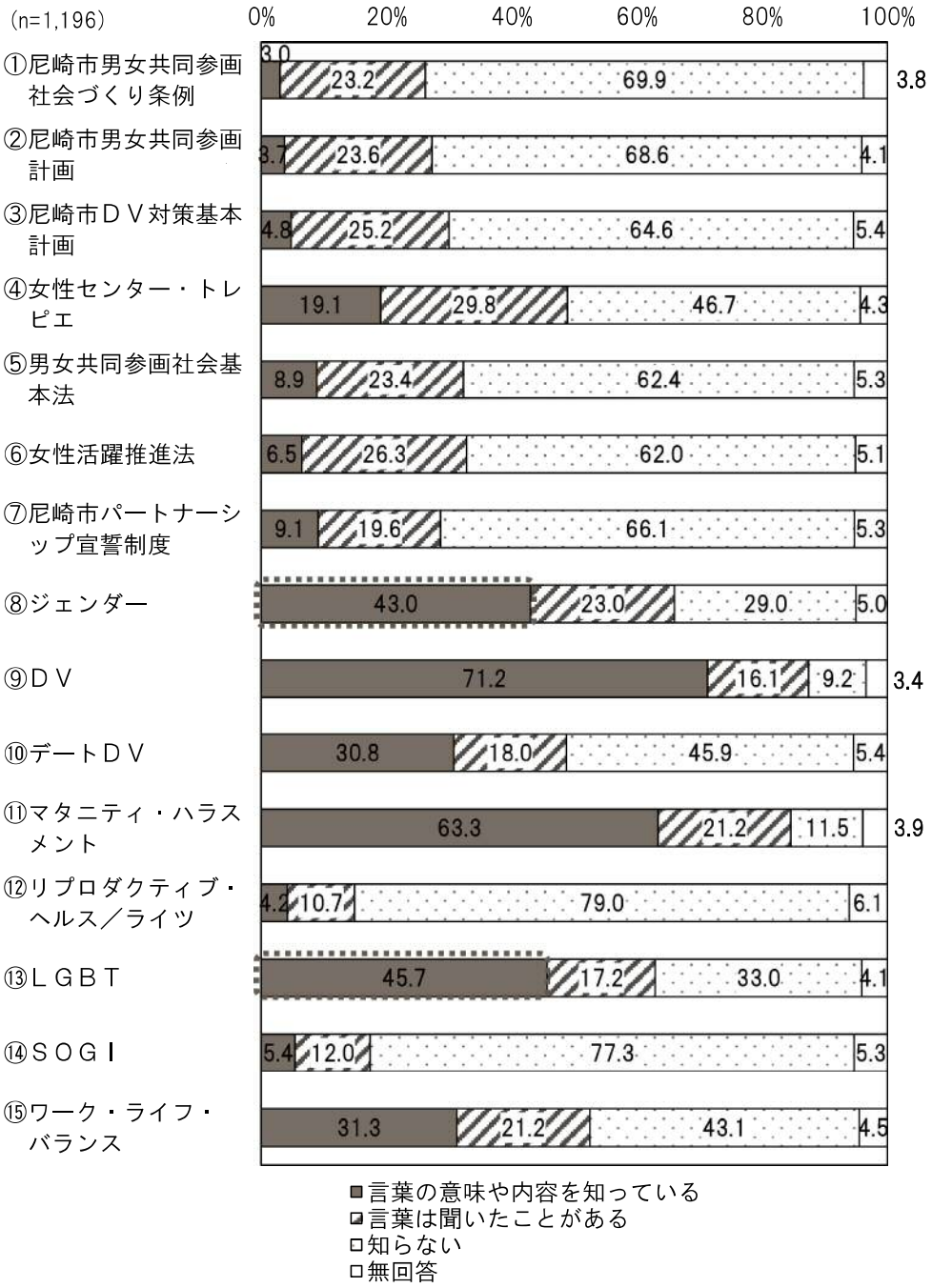


11．男女共同参画施策の認知度について（58 頁）

> ➢ 前回調査（H28 実施）より、「ジェンダー」・「ＬＧＢＴ」についての認知度が 20 ポイント程度高くなっている。

○男女共同施策等の認知度については、前回調査より、「⑧ジェンダー」・「⑬ＬＧＢＴ」などで「言葉の意味や内容を知っている」割合が 20 ポイント程度高くなっています。

【男女共同施策等の認知度について】

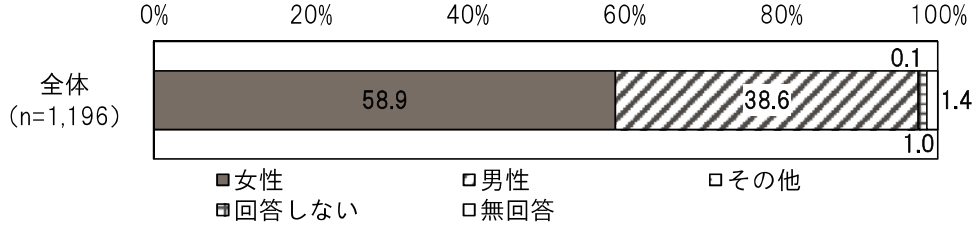


Ⅲ．調査結果

１．回答者の属性

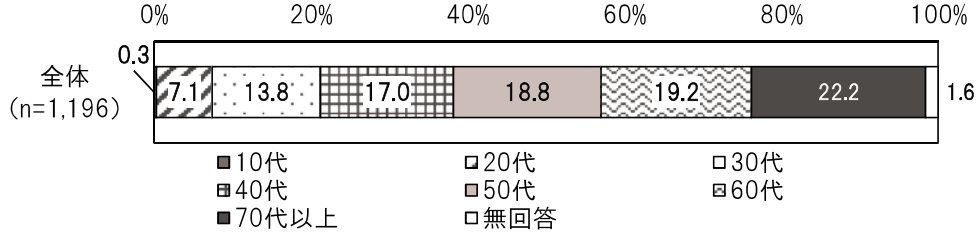
（ア）　性別

・性別は「女性」が 58.9％、「男性」が 38.6％、「その他」が 0.1％、「回答しない」が 1.0％となっています。



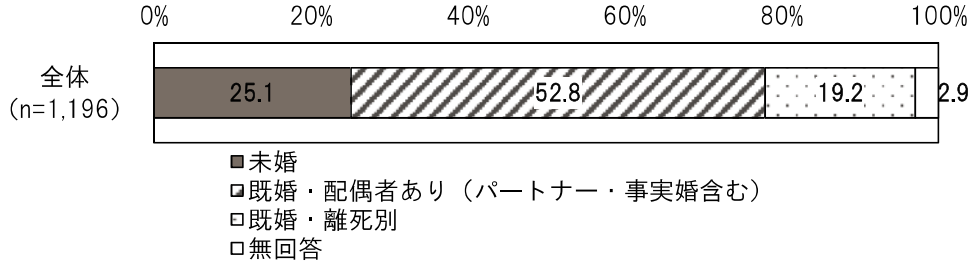
（イ）　年代

・年代は、「70 代以上」が 22.2％と最も高く、次いで「60 代」（19.2％）、「50 代」（18.8％）となっています。



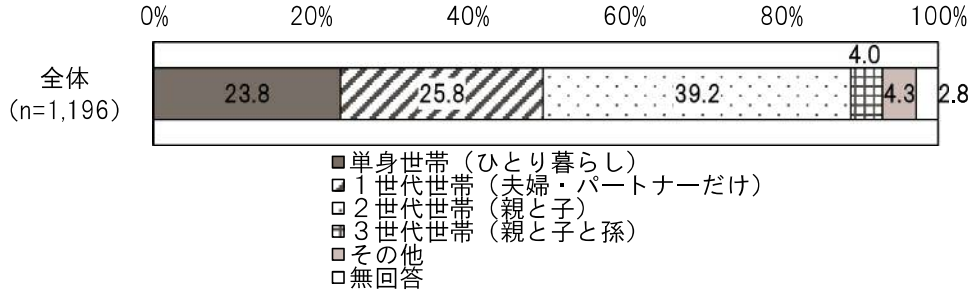
（ウ）　結婚状況

・結婚状況は「既婚・配偶者あり（パートナー・事実婚含む）」が 52.8％と最も高く、次いで「未婚」（25.1％）、「既婚・離死別」（19.2％）となっています。



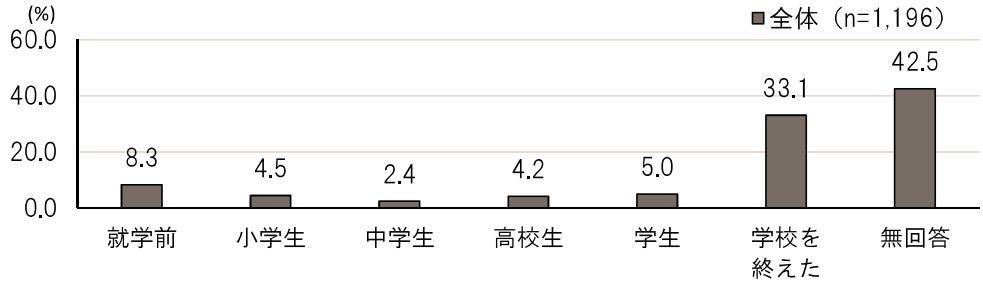
（エ）　同居家族

・同居家族は「２世代世帯（親と子）」が 39.2％と最も高く、次いで「１世代世帯（夫婦・パートナーだけ）」（25.8％）、「単身世帯（ひとり暮らし）」（23.8％）となっています。



（オ）　一番下の子どもの就学状況

・一番下の子どもの就学状況は「学校を終えた」が 33.1％と最も高く、次いで「就学前」（8.3％）、「学生」（5.0％）となっています。

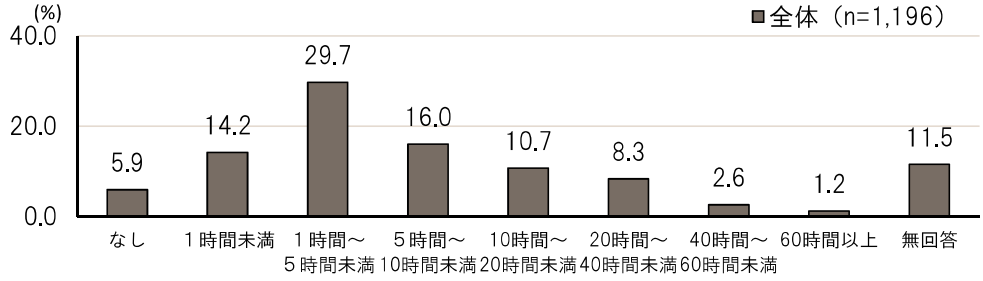


（カ）　ふだんの１週間あたりの家事・育児に費やす時間

① 家事時間

・ふだんの１週間あたりの家事時間については、「１時間～５時間未満」が 29.7％と最も高く、次いで「５時間～10 時間未満」（16.0％）、「１時間未満」（14.2％）となっています。

・性別にみると、女性では「20 時間～40 時間未満」が 13.4％と、男性（0.6％）より高くなっている一方で、男性では「１時間未満」が 24.9％と、女性（7.5％）より高くなっています。



（%）

	回答者数	なし	１時間未満	１時間～５時間未満	５時間～１０時間未満	１０時間～２０時間未満	２０時間～４０時間未満	４０時間～６０時間未満	６０時間以上	無回答
女性	704	2.8	**7.5**	29.4	16.6	12.9	**13.4**	3.8	1.8	11.6
男性	462	10.8	**24.9**	31.0	16.0	8.0	**0.6**	0.6	0.2	7.8

【（オ）一番下の子どもの就学状況とのクロス集計】

・一番下の子どもの就学状況別にみると、女性は子どもが「就学前」では、「20～40 時間未満」が 26.5％と最も高く、「小学生」以降は「１時間～５時間未満」が最も高くなっています。男性は子どもが「就学前」では「５時間～10 時間未満」が 28.6％と最も高く、「小学生」では「１時間～５時間未満」、「中学生」・「高校生」は「１時間未満」が最も高くなっています。

（%）

		回答者数	なし	1時間未満	1時間～5時間未満	5時間～10時間未満	10時間～20時間未満	20時間～40時間未満	40時間～60時間未満	60時間以上	無回答
女性	就学前	49	－	－	24.5	8.2	18.4	**26.5**	12.2	2.0	8.2
	小学生	30	－	3.3	**30.0**	13.3	23.3	16.7	3.3	－	10.0
	中学生	20	5.0	－	**35.0**	20.0	10.0	20.0	5.0	－	5.0
	高校生	23	－	4.3	**30.4**	13.0	17.4	21.7	13.0	－	－
	学生	31	－	6.5	**32.3**	22.6	9.7	19.4	6.5	3.2	－
	学校を終えた	238	1.7	9.2	**29.4**	15.5	11.8	16.0	4.6	3.8	8.0
男性	就学前	49	14.3	26.5	20.4	**28.6**	8.2	－	2.0	－	－
	小学生	24	8.3	8.3	**37.5**	33.3	8.3	－	－	－	4.2
	中学生	9	11.1	**55.6**	22.2	11.1	－	－	－	－	－
	高校生	27	14.8	**44.4**	25.9	11.1	－	－	－	－	3.7
	学生	28	7.1	32.1	32.1	14.3	14.3	－	－	－	－
	学校を終えた	155	12.3	29.7	33.5	12.3	7.7	0.6	0.6	0.6	2.6

【既婚の正規社員・職員における性別でのクロス集計】

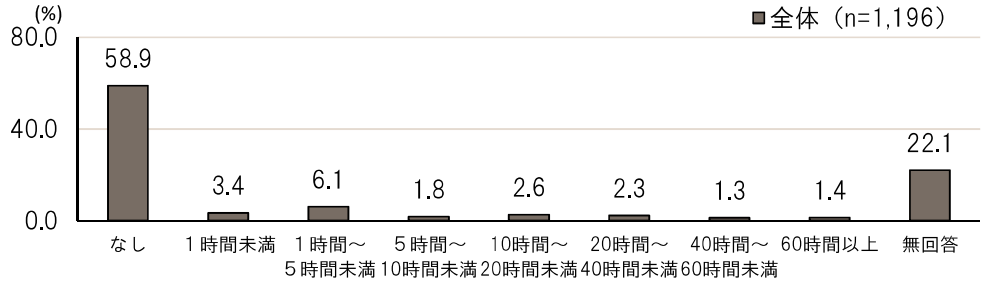
・既婚の正規社員・職員において性別にみると、女性では「１時間～５時間未満」が最も高く、男性では「１時間未満」が最も高くなっています。また、「10 時間以上」の割合の合計は、女性で 47.1％である一方、男性では 6.7％となっており、「既婚・正規社員」という同一の条件下においても、女性での家事時間が長い結果となっています。

（%）

		回答者数	なし	1時間未満	1時間～5時間未満	5時間～10時間未満	10時間～20時間未満	20時間～40時間未満	40時間～60時間未満	60時間以上	無回答
既婚・正規社員	女性	70	1.4	7.1	**25.7**	14.3	24.3	17.1	4.3	1.4	4.3
	男性	180	11.1	**32.2**	30.0	17.2	5.0	0.6	1.1	－	2.8

② 育児時間

・ふだんの１週間あたりの育児時間については、「なし」が 58.9％と最も高く、次いで「１時間～５時間未満」（6.1％）、「１時間未満」（3.4％）となっています。



【（オ）一番下の子どもの就学状況とのクロス集計】

・一番下の子どもの就学状況別にみると、女性は子どもが「就学前」では、「60 時間以上」が 26.5％と最も高く、「小学生」・「中学生」は「１時間～５時間未満」、「高校生」以降では「なし」が最も高くなっています。男性は子どもが「就学前」・「小学生」では「１時間～５時間未満」が最も高く、「中学生」以降では「なし」が最も高くなっています。

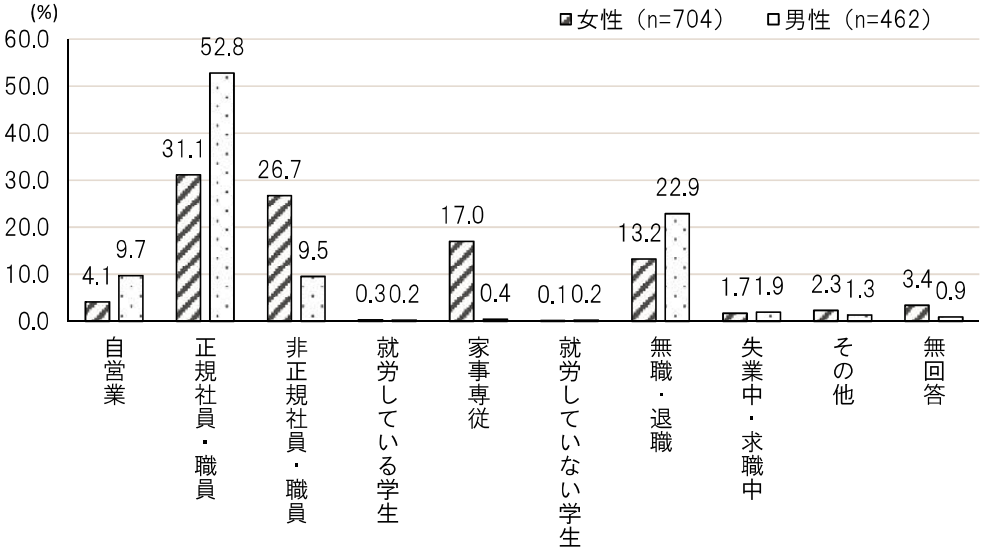
・「就学前」の子どもをもつ男性において、「５時間未満」の割合の合計が 44.9％と４割以上を占めている一方で、「10 時間以上」の割合の合計は 34.7％となっており、育児時間について概ね二極化する特徴がみられます。

（%）

		回答者数	なし	1時間未満	1時間～5時間未満	5時間～10時間未満	10時間～20時間未満	20時間～40時間未満	40時間～60時間未満	60時間以上	無回答
女性	就学前	49	－	－	12.2	10.2	18.4	12.2	12.2	**26.5**	8.2
	小学生	30	－	3.3	**33.3**	16.7	13.3	20.0	6.7	3.3	3.3
	中学生	20	15.0	20.0	**30.0**	－	5.0	5.0	－	5.0	20.0
	高校生	23	**47.8**	8.7	21.7	－	－	－	－	－	21.7
	学生	31	**77.4**	6.5	3.2	－	－	－	3.2	－	9.7
	学校を終えた	238	**71.8**	2.5	3.8	0.8	1.7	0.4	1.3	0.8	16.8
男性	就学前	49	8.2	10.2	**26.5**	10.2	16.3	10.2	8.2	－	10.2
	小学生	24	12.5	20.8	**29.2**	4.2	12.5	4.2	－	－	16.7
	中学生	9	**33.3**	22.2	22.2	－	－	－	－	－	22.2
	高校生	27	**48.1**	14.8	14.8	－	3.7	－	－	－	18.5
	学生	28	**75.0**	14.3	－	－	－	－	－	－	10.7
	学校を終えた	155	**83.2**	1.9	3.9	1.3	－	－	－	－	9.7

（キ）　現在の主な仕事

・現在の主な仕事について、性別にみると、男女ともに「正規社員・職員」が最も高くなっているものの、男性が 52.8％と、女性（31.1％）より 21.7 ポイント高くなっています。また、女性では「非正規社員・職員」が 26.7％、「家事専従」が 17.0％と、ともに男性より 15 ポイント以上高くなっています。



・性年代別にみると、女性は「50～60 代」で「非正規社員・職員」が最も高くなっています。また、子育て期の 30～40 代の女性に着目すると、「正規社員・職員」が 50％以上を占め最も高くなっており、「自営業」・「非正規社員・職員」を合わせた『有職者』の割合は８割以上となっています。

(%)

		回答者数	自営業	正規社員・職員	非正規社員・職員	就労している学生	家事専従	就労していない学生	無職・退職	失業中・求職中	その他	無回答
女性	10～20 代	58	－	69.0	10.3	3.4	1.7	1.7	1.7	5.2	1.7	5.2
	30 代	105	1.0	**57.1**	26.7	－	6.7	－	1.9	2.9	2.9	1.0
	40 代	121	3.3	**50.4**	33.1	－	5.0	－	3.3	1.7	1.7	1.7
	50 代	129	4.7	32.6	**37.2**	－	14.0	－	6.2	3.1	0.8	1.6
	60 代	137	6.6	10.9	**35.8**	－	19.0	－	22.6	－	3.6	1.5
	70 代以上	153	5.9	0.7	11.1	－	40.5	－	30.7	－	2.6	8.5
男性	10～20 代	29	6.9	89.7	－	3.4	－	－	－	－	－	－
	30 代	59	5.1	88.1	3.4	－	－	－	1.7	1.7	－	－
	40 代	79	10.1	78.5	6.3	－	－	－	1.3	2.5	1.3	－
	50 代	93	10.8	81.7	4.3	－	1.1	－	1.1	－	1.1	－
	60 代	92	10.9	25.0	21.7	－	－	－	35.9	5.4	1.1	－
	70 代以上	110	10.9	4.5	11.8	－	0.9	0.9	63.6	0.9	2.7	3.6

【（オ）一番下の子どもの就学状況とのクロス集計】

・一番下の子どもの就学状況別にみると、女性は子どもが「就学前」・「中学生」では、「正規社員・職員」が最も高く、「小学生」・「高校生」・「学生」では「非正規社員・職員」が最も高くなっています。男性は「学校を終えた」以外のいずれにおいても「正規社員・職員」が最も高くなっています。

・また、「就学前」の子どもをもつ女性において、「自営業」・「正規社員・職員」・「非正規社員・職員」を合わせた『有職者』の割合が 67.4％と 6 割以上となっています。

(%)

		回答者数	自営業	正規社員・職員	非正規社員・職員	就労している学生	家事専従	就労していない学生	無職・退職	失業中・求職中	その他	無回答
女性	就学前	49	4.1	**42.9**	20.4	－	16.3	－	4.1	2.0	8.2	2.0
	小学生	30	3.3	30.0	**53.3**	－	6.7	－	3.3	－	－	3.3
	中学生	20	5.0	**40.0**	30.0	－	10.0	－	15.0	－	－	－
	高校生	23	－	21.7	**43.5**	－	4.3	－	21.7	－	－	8.7
	学生	31	16.1	6.5	**38.7**	－	22.6	－	12.9	－	－	3.2
	学校を終えた	238	5.0	8.0	29.8	－	33.2	－	19.3	0.8	1.7	2.1
男性	就学前	49	6.1	**91.8**	－	－	－	－	－	2.0	－	－
	小学生	24	8.3	**87.5**	－	－	－	－	4.2	－	－	－
	中学生	9	11.1	**88.9**	－	－	－	－	－	－	－	－
	高校生	27	7.4	**66.7**	3.7	－	－	－	18.5	－	3.7	－
	学生	28	17.9	**50.0**	10.7	－	－	－	21.4	－	－	－
	学校を終えた	155	11.0	28.4	15.5	－	0.6	－	38.1	2.6	1.9	1.9

【前回調査との比較】

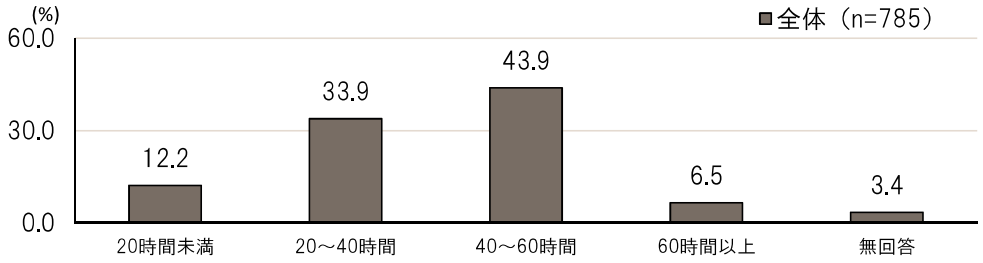
・前回調査と比較すると、30～40 代の子育て期の女性において、前回調査では「非正規社員・職員」が 4 割以上を占め最も高くなっていた一方で、今回調査では「正規社員・職員」が 5 割以上を占め最も高くなっています。また、20～40 代の女性において、前回調査より「正規社員・職員」の割合が 20 ポイント以上増加しています。

（ク）　１週間の労働時間と今後の就労希望

（（キ）で「自営業」・「正規社員・職員」・「非正規社員・職員」・「就労している学生」のいずれかを回答した方のみ）

①　１週間の労働時間

・１週間の労働時間については、「40～60 時間」が 43.9％と最も高く、次いで「20～40 時間」（33.9％）、「20 時間未満」（12.2％）となっています。



【（オ）一番下の子どもの就学状況とのクロス集計】

・一番下の子どもの就学状況別にみると、女性は子どもが「就学前」では、「40～60 時間未満」が 39.4％と最も高く、「小学生」以降は「20～40 時間未満」が最も高くなっています。男性は就学状況に関わらず「40～60 時間未満」が最も高くなっています。

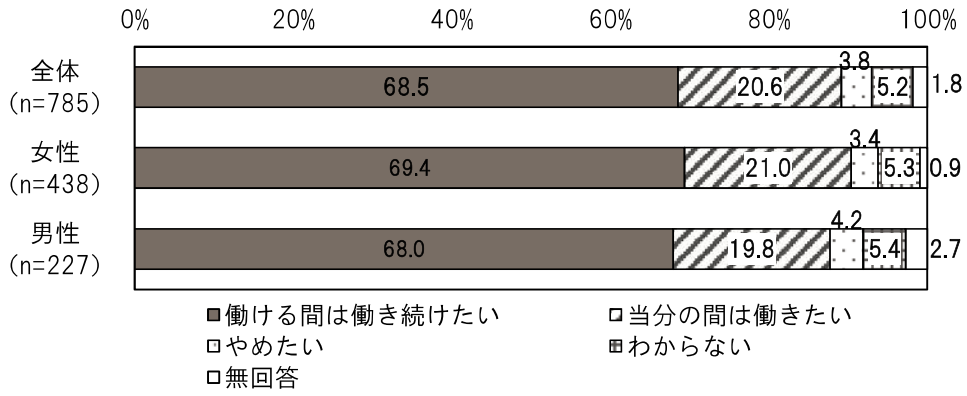
（%）

		回答者数	20時間未満	20～40時間未満	40～60時間未満	60時間以上	無回答
女性	就学前	33	21.2	27.3	**39.4**	6.1	6.1
	小学生	26	23.1	**53.8**	19.2	－	3.8
	中学生	15	6.7	**40.0**	33.3	13.3	6.7
	高校生	15	26.7	**53.3**	20.0	－	－
	学生	19	36.8	**42.1**	15.8	－	5.3
	学校を終えた	102	27.5	**49.0**	17.6	－	5.9
男性	就学前	48	－	14.6	**68.8**	12.5	4.2
	小学生	23	－	8.7	**73.9**	17.4	－
	中学生	9	－	22.2	**77.8**	－	－
	高校生	21	4.8	23.8	**61.9**	9.5	－
	学生	22	13.6	18.2	**54.5**	4.5	9.1
	学校を終えた	85	12.9	34.1	**35.3**	12.9	4.7

② 今後の就労希望

・今後の就労希望については、「働ける間は働き続けたい」が 68.5％と最も高く、「当分の間は働きたい」（20.6％）と合わせると、89.1％が『働き続けたい』と回答している結果となっています。

・性別による大きな差はみられません。

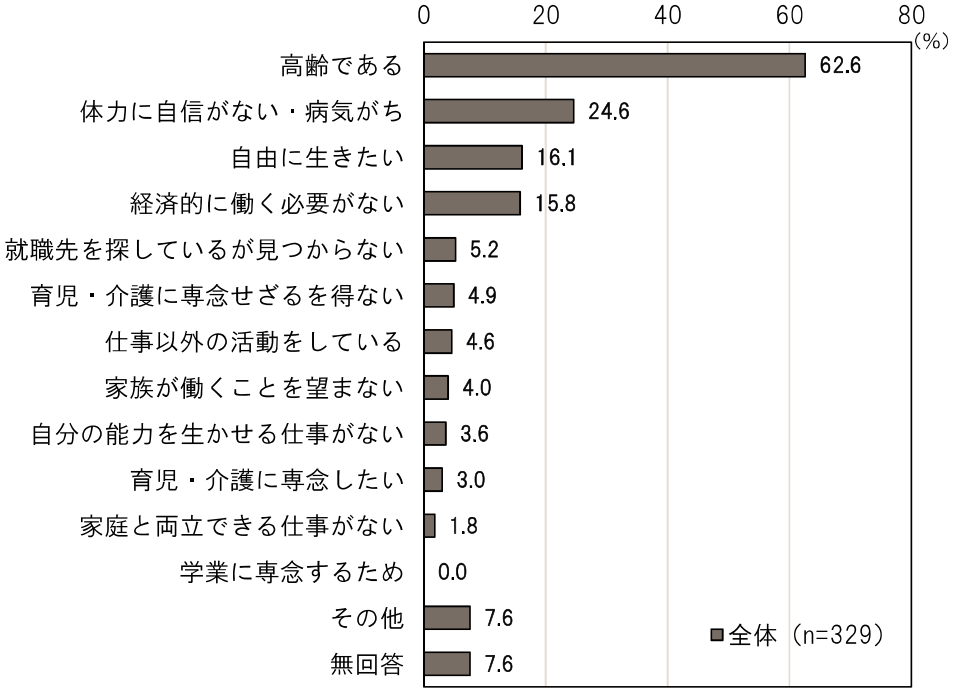


（ケ） 仕事をしていない理由と今後の就労希望

（（キ）で「家事専従」・「就労していない学生」・「無職・退職」・「失業中・求職中」のいずれかを回答した方のみ）

① 仕事をしていない理由

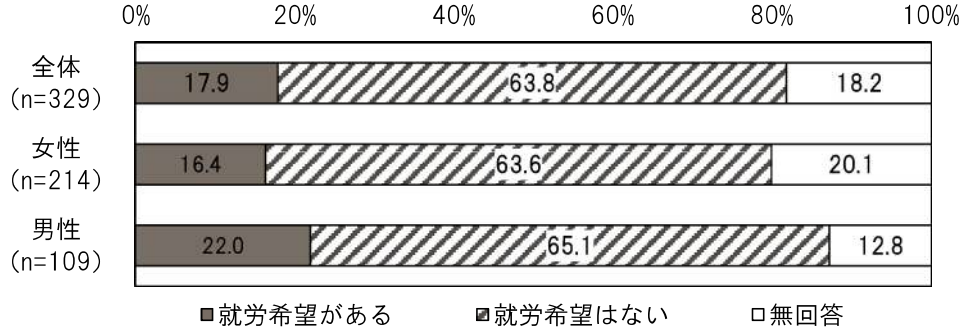
・仕事をしていない理由については、「高齢である」が 62.6％と最も高く、次いで「体力に自信がない・病気がち」（24.6％）、「自由に生きたい」（16.1％）となっています。



② 今後の就労希望

・今後の就労希望については、「就労希望はない」が 63.8％と最も高くなっています。

・性別にみると、男性で「就労希望がある」が 22.0％と、女性（16.4％）よりやや高くなっています。



【（カ）ふだんの家事・育児に費やす時間とのクロス集計】

①家事時間

・就労希望別にみると、女性では「就労希望あり」で家事時間は「20 時間～40 時間未満」が最も高くなっています。男性では就労希望の有無に関わらず「１時間～５時間未満」が最も高くなっています。

(%)

		回答者数	なし	1時間未満	1時間～5時間未満	5時間～10時間未満	10時間～20時間未満	20時間～40時間未満	40時間～60時間未満	60時間以上	無回答
女性	就労希望あり	35	－	2.9	17.1	11.4	5.7	**34.3**	8.6	8.6	11.4
	就労希望なし	136	2.9	6.6	37.5	19.1	7.4	12.5	5.9	2.9	5.1
男性	就労希望あり	24	12.5	20.8	**33.3**	16.7	8.3	－	－	－	8.3
	就労希望なし	71	8.5	21.1	**32.4**	9.9	18.3	1.4	－	1.4	7.0

②育児時間

・就労希望別にみると、女性では「就労希望あり」で「20 時間以上」を回答した人の合計が 14.3％と１割以上となっています。

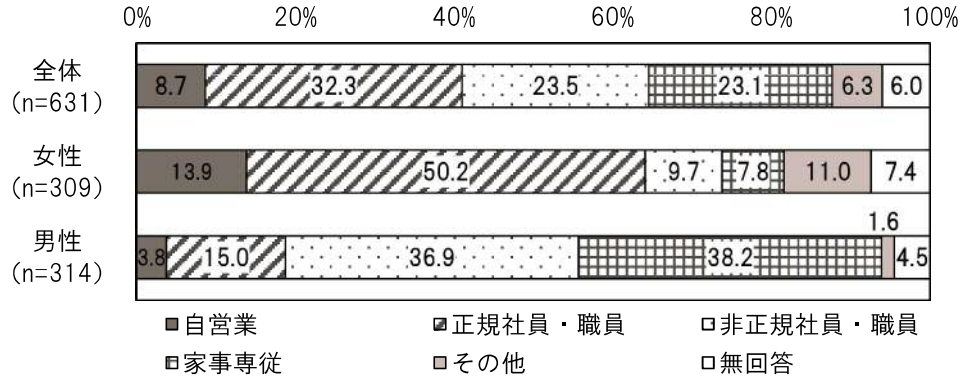
(%)

		回答者数	なし	1時間未満	1時間～5時間未満	5時間～10時間未満	10時間～20時間未満	20時間～40時間未満	40時間～60時間未満	60時間以上	無回答
女性	就労希望あり	35	54.3	2.9	5.7	8.6	2.9	**2.9**	**5.7**	**5.7**	11.4
	就労希望なし	136	64.7	3.7	4.4	1.5	0.7	0.7	1.5	2.9	19.9
男性	就労希望あり	24	79.2	－	4.2	－	4.2	－		－	12.5
	就労希望なし	71	81.7	－	1.4	－	－	－	－	－	16.9

（コ）　配偶者の仕事　（（ウ）で「既婚・配偶者あり（パートナー・事実婚含む）」を回答した方のみ

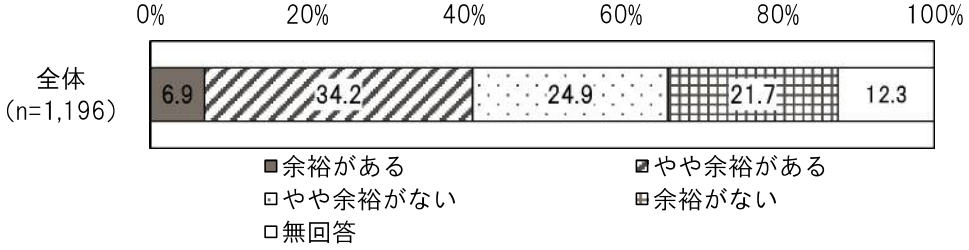
・配偶者の仕事については、「正規社員・職員」が 32.3％と最も高く、次いで「非正規社員・職員」（23.5％）となっています。

・性別にみると、女性では「正規社員・職員」が 50.2％と最も高くなっている一方で、男性では「家事専従」が 38.2％と最も高くなっています。



（サ）　家計の状況

・家計の状況については、「やや余裕がある」が 34.2％と最も高く、次いで「やや余裕がない」（24.9％）、「余裕がない」（21.7％）となっています。



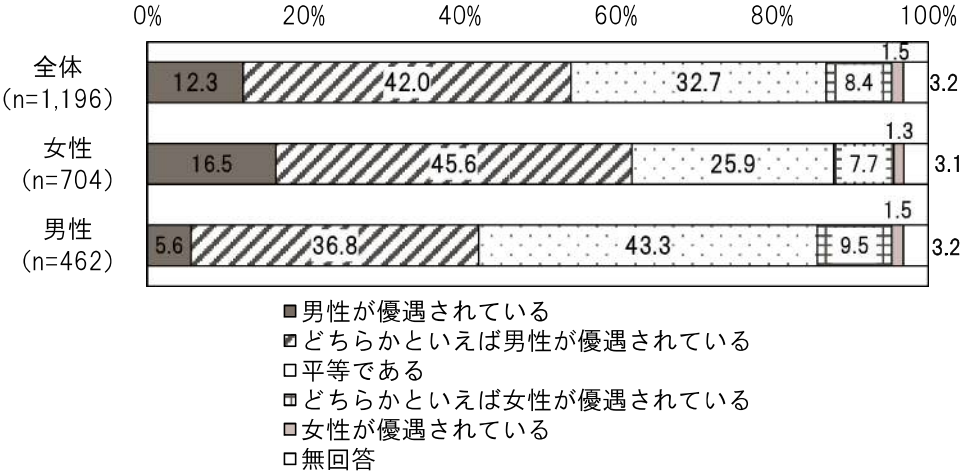
２．男女の平等感について

問１　次の①～⑧の各分野において、男女はどの程度平等だと思いますか。
（それぞれ、あてはまるもの１つに○）

① 家庭生活

・家庭生活については、「どちらかといえば男性が優遇されている」が 42.0％と最も高く、「男性が優遇されている」と合わせた『男性優遇』と感じる割合は 54.3％となっています。

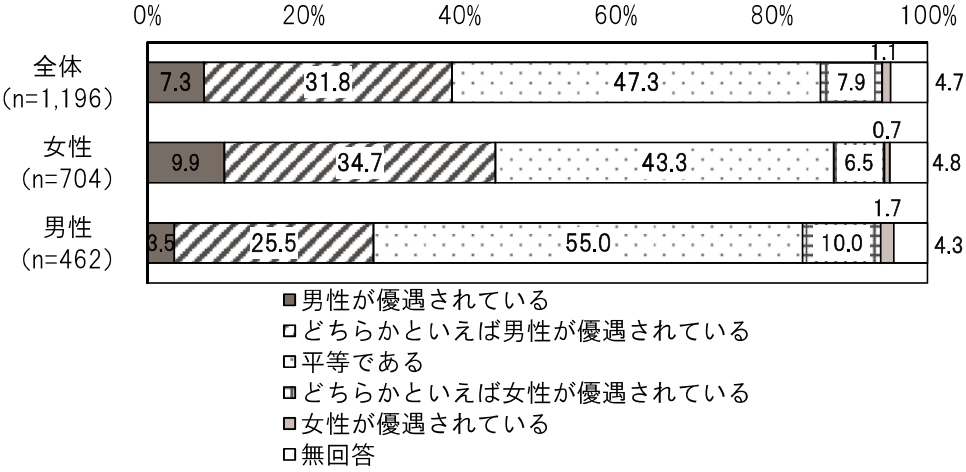
・性別にみると、女性では『男性優遇』と感じる割合が 62.1％と、男性（42.4％）より高くなっています。



② 地域活動

・地域活動については、「平等である」が 47.3％と最も高い一方で、『男性優遇』と感じる割合は 39.1％となっています。

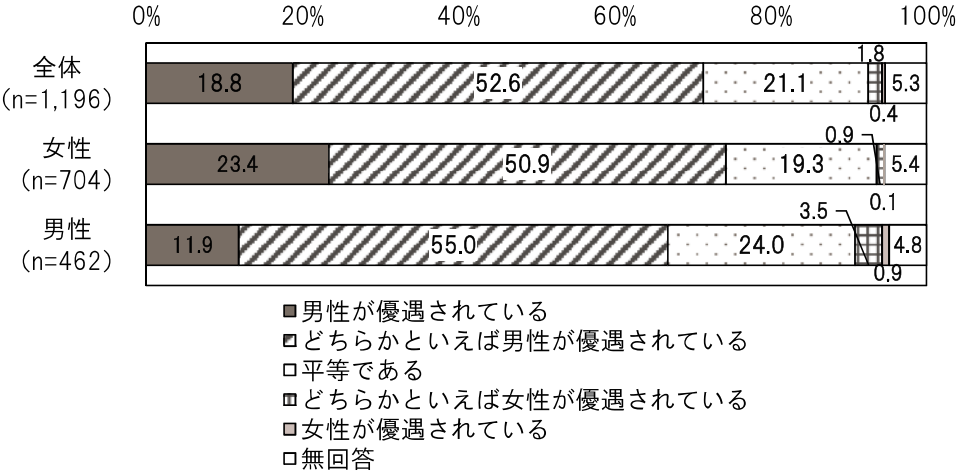
・性別にみると、女性では『男性優遇』と感じる割合が 44.6％と、男性（29.0％）より高くなっています。



③ 社会通念やしきたり等

・社会通念やしきたり等については、「どちらかといえば男性が優遇されている」が 52.6％と最も高く、「男性が優遇されている」と合わせた『男性優遇』と感じる割合は 71.4％となっています。

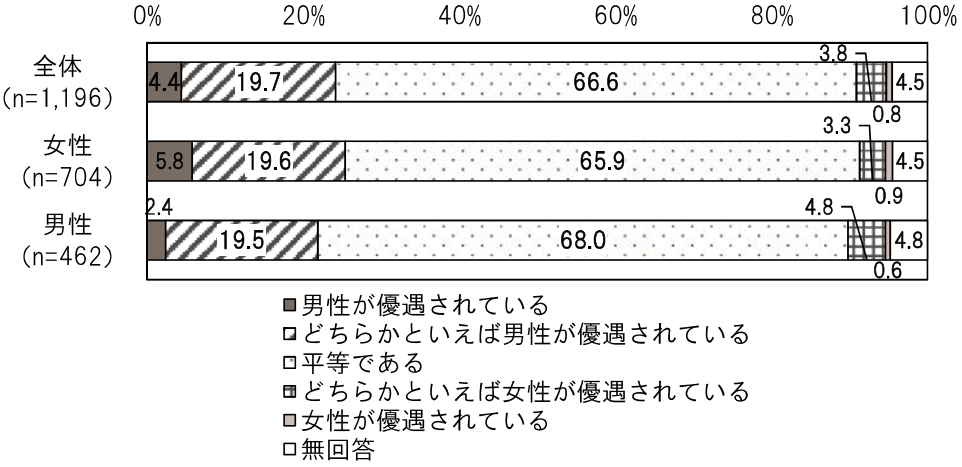
・性別にみると、女性では『男性優遇』と感じる割合が 74.3％と、男性（66.9％）よりやや高くなっています。



④ 学校（教育の場）

・学校（教育の場）については、「平等である」が 66.6％と最も高い一方で、『男性優遇』と感じる割合は 24.1％となっています。

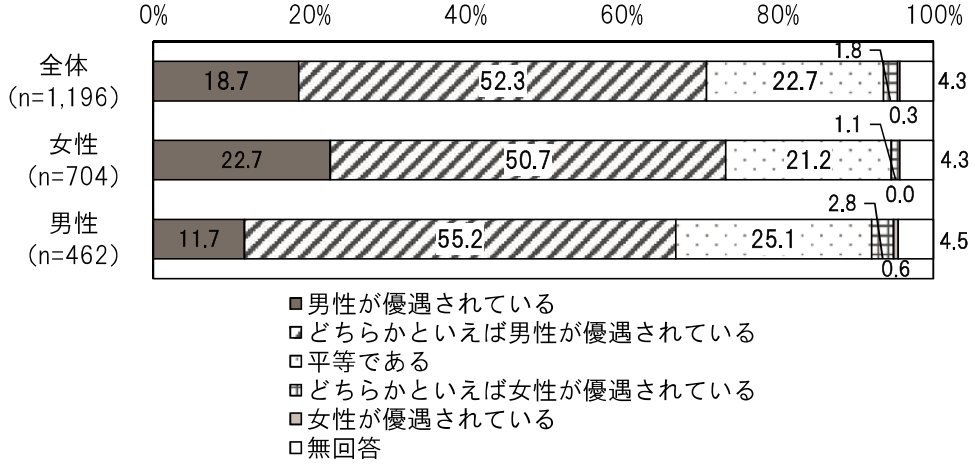
・性別による大きな差はみられません。



⑤ 就職・雇用

・就職・雇用については、「どちらかといえば男性が優遇されている」が 52.3％と最も高く、「男性が優遇されている」と合わせた『男性優遇』と感じる割合は 71.0％となっています。

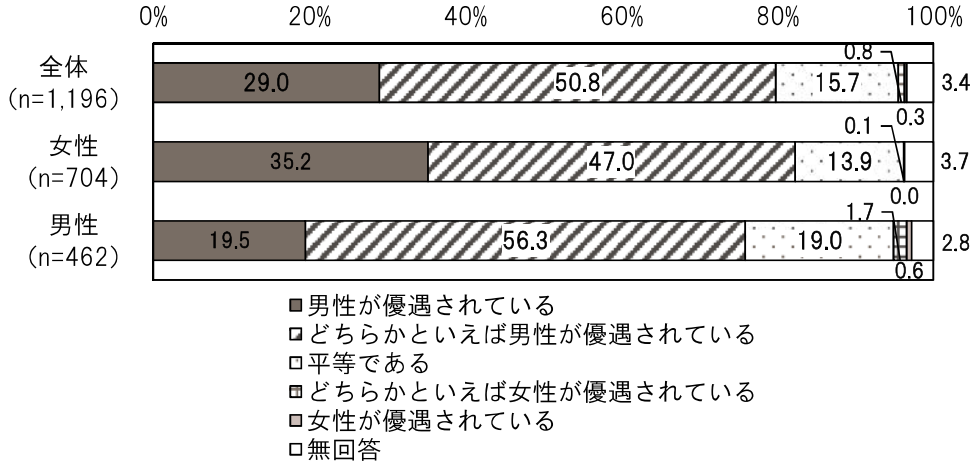
・性別にみると、女性では『男性優遇』と感じる割合が 73.4％と、男性（66.9％）よりやや高くなっています。



⑥ 職場（賃金・昇進）

・職場（賃金・昇進）については、「どちらかといえば男性が優遇されている」が 50.8％と最も高く、「男性が優遇されている」と合わせた『男性優遇』と感じる割合は 79.8％となっています。

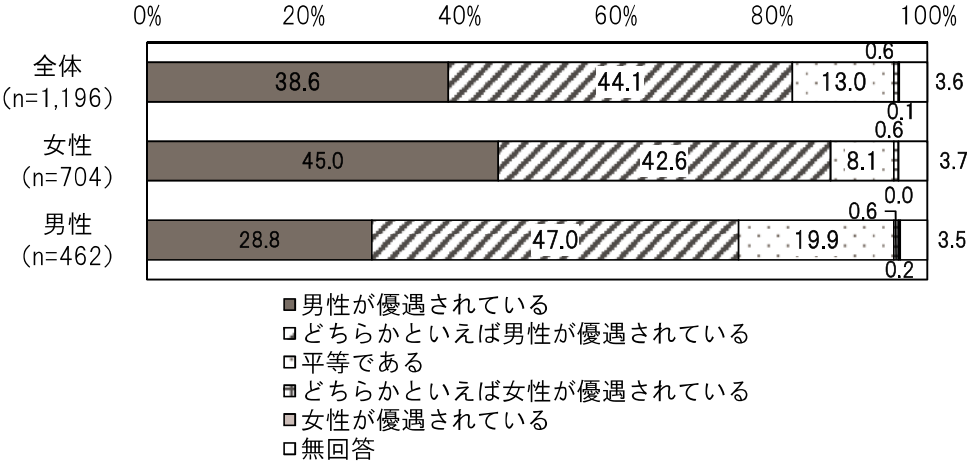
・性別にみると、女性では『男性優遇』と感じる割合が 82.2％と、男性（75.8％）よりやや高くなっています。



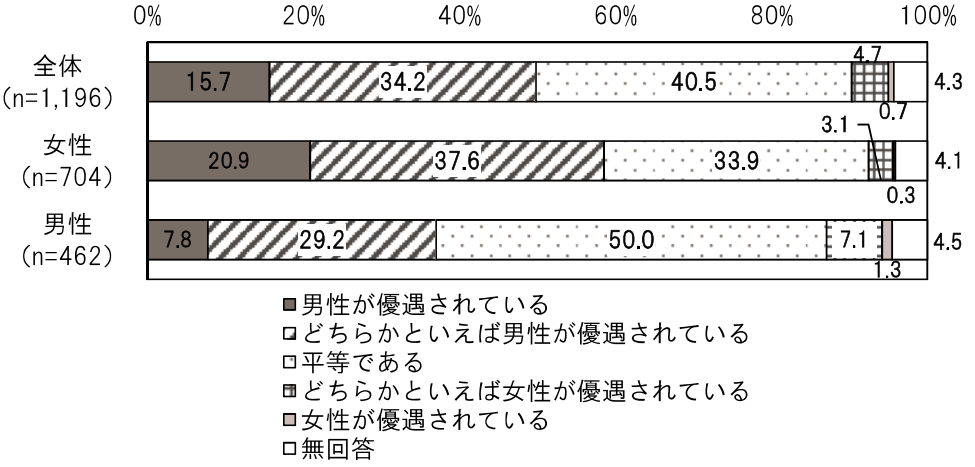
⑦ 政治・経済の分野

・政治・経済の分野については、「どちらかといえば男性が優遇されている」が 44.1％と最も高く、「男性が優遇されている」と合わせた『男性優遇』と感じる割合は 82.7％となっています。

・性別にみると、女性では『男性優遇』と感じる割合が 87.6％と、男性（75.8％）より高くなっています。



⑧ 法律や制度

・法律や制度については、「平等である」が 40.5％と最も高い一方で、『男性優遇』と感じる割合は 49.9％となっています。

・性別にみると、女性では『男性優遇』と感じる割合が 58.5％と、男性（37.0％）より高くなっています。